
令和2年度 第1回岩手県大規模事業評価専門委員会

日 時 令和2年7月22日（水）9:30～12:00

場 所 マリオス18階 181会議室

次 第

1 開 会

2 挨 拶

加藤専門委員長

3 議 事

(1) 令和2年度専門委員会の開催スケジュール等について

(2) 大規模公共事業の再評価について<諮問審議>

- ・地域連携道路整備事業（地域密着型）一般県道大ケ生徳田線 徳田橋
（盛岡市、矢巾町）

- ・木賊川広域河川改修事業（盛岡市、滝沢市）

- ・北上川（上流）広域河川改修事業（岩手町）

(3) 第2回専門委員会（現地調査）について

4 閉 会

岩手県大規模事業評価専門委員会委員名簿(五十音順)

氏 名	職	専門分野	備 考
加藤 徹	宮城大学 名誉教授	農業土木 農村計画	専門委員長
狩野 徹	岩手県立大学社会福祉学部 副学長	都市計画 建築計画	副専門委員長
小井田 伸雄	岩手県立大学総合政策学部 教授	経済学	
島田 直明	岩手県立大学総合政策学部 准教授	植生学 環境生態学	
竹内 貴弘	八戸工業大学大学院工学研究科 教授	海洋工学 水工学	(欠席)
松山 梨香子	一般財団法人岩手県建築住宅センター 一級建築士	建築	
八重樫 健太郎	北光監査法人 公認会計士	企業会計	
山本 英和	岩手大学理工学部 准教授	地震工学	

(敬称略)

令和2年度第1回大規模事業評価専門委員会
配付資料一覧

- 資料 No. 1 令和2年度大規模事業評価専門委員会の開催スケジュール（案）
- 資料 No. 2 大規模事業評価諮問書（写）
- 資料 No. 3 令和2年度大規模事業評価地区 位置図（R2.7 諮問）
- 資料 No. 4 大規模事業評価関係資料
 - ・ 地域連携道路整備事業（地域密着型）一般県道大ヶ生徳田線 徳田橋（盛岡市、矢巾町）
 - ・ 木賊川広域河川改修事業（盛岡市、滝沢市）
 - ・ 北上川（上流）広域河川改修事業（岩手町）
- 資料 No. 5 令和2年度大規模事業評価専門委員会 現地調査行程（案）

令和2年度大規模事業評価専門委員会の開催スケジュール（案）

1. 審議案件（予定）【4件】

【再評価】

- ① 地域連携道路整備事業（地域密着型）一般県道大ケ生徳田線 徳田橋
【県土整備部】（盛岡市、矢巾町）
- ② 木賊川広域河川改修事業【県土整備部】（盛岡市、滝沢市）
- ③ 北上川（上流）広域河川改修事業【県土整備部】（岩手町）

【事前評価】

釜石祥雲支援学校新築等事業（釜石市）

※新たに事前評価や随時再評価の必要が生じた事業があった場合には、上記案件以外にも審議をお願いすることがあります。

2. 報告案件（予定）【2件】

【事後評価】

- ① 経営体育成基盤整備事業一関第1地区【農林水産部】（一関市、平泉町）
- ② 地域連携道路整備事業（ネットワーク形成型）和井内道路【県土整備部】（宮古市）

3. 年間スケジュール（予定）

時 期	専門委員会等の内容	再評価 （審議）	事前評価 （審議）	事後評価等 （報告）	備 考
7/22（水）	第1回専門委員会	○	—	—	再評価 諮問審議
8/20（木）	第2回専門委員会（現地）	○	—	—	再評価 継続審議
9/14（月）	第3回専門委員会	○	○	○	再評価 答申案審議 事前評価 諮問審議 事後評価報告
10月	第4回専門委員会	—	○	—	事前評価 答申案審議
（令和3年） 2月上旬	第5回専門委員会	—	—	—	R3年度 スケジュール等

※現時点での予定であり、審議等の進捗状況に応じて、審議回数は増減する場合があります。

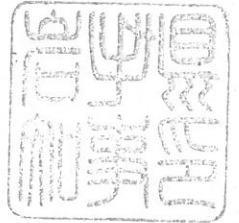
諮問書 (写)



政 第 7 3 号
令和 2 年 7 月 16 日

岩手県政策評価委員会
委員長 加藤 徹 様

岩手県知事 達 増 拓 也



大規模事業評価について（諮問）

政策等の評価に関する条例（平成 15 年岩手県条例第 60 号）第 10 条第 1 項の規定に基づき、別紙の大規模公共事業に係る再評価について意見を聴きたいので、評価調書を付して諮問します。



令和2年7月16日

岩手県大規模事業評価専門委員会

専門委員長 加藤 徹 様

岩手県政策評価委員会

委員長 加藤 徹



大規模事業評価に係る諮問について

政策等の評価に関する条例（平成15年岩手県条例第60号）第10条第1項の規定に基づき、別添のとおり岩手県知事から、大規模公共事業に係る再評価について諮問がありましたので通知します。

(別紙)

大規模事業評価対象事業一覧表

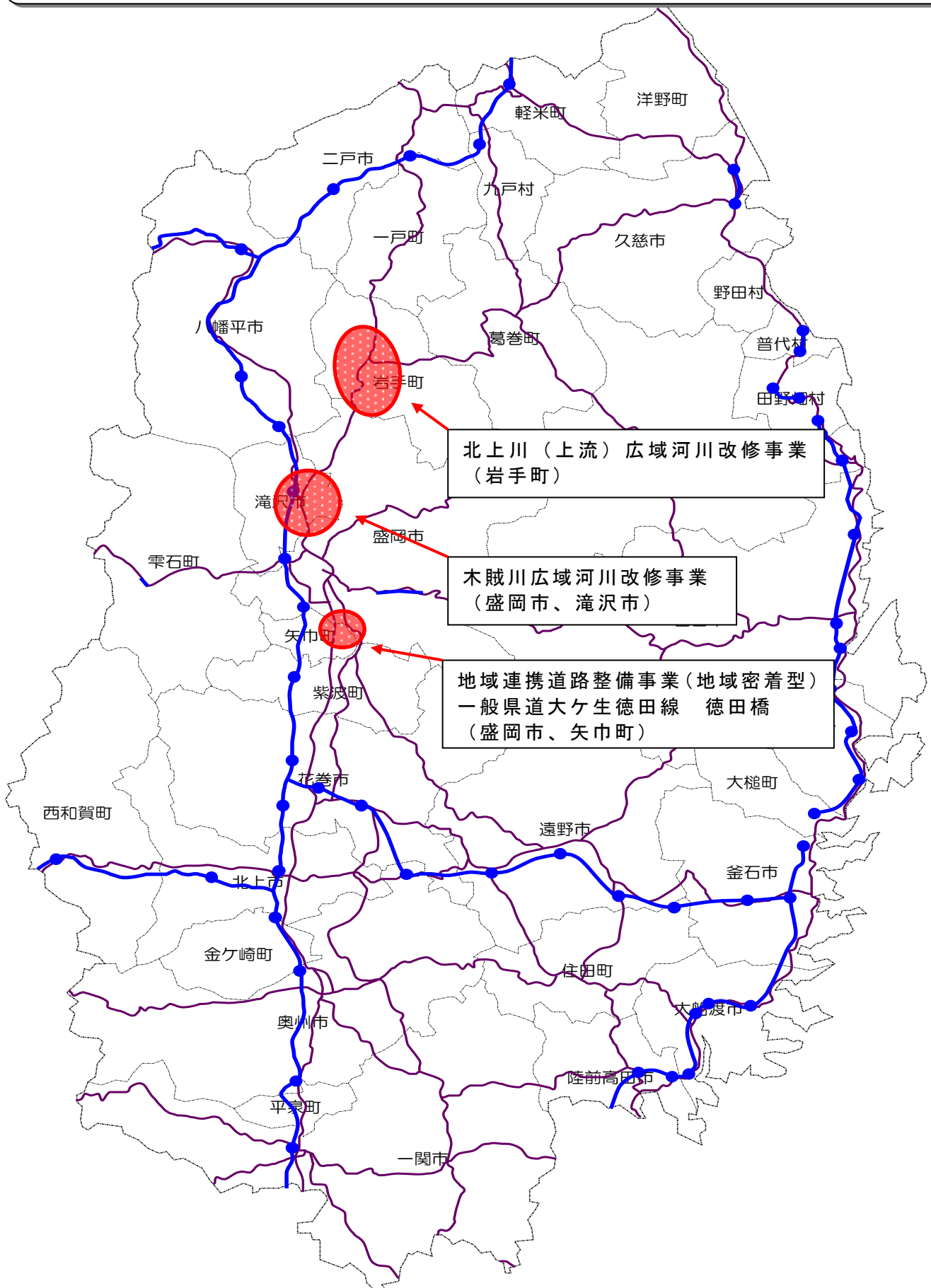
1 大規模公共事業 再評価

番号	担当部名 担当課名	事業名	市町村名	事業計画			再評価 の要件
				着手 年度	完了 予定 年度	総事業費 (百万円)	
1	県土整備部 道路建設課	地域連携道路整備事業（地域密着型） 一般県道大ヶ生徳田線 徳田橋	盛岡市、 矢巾町	H23	R10	9,065	②
2	県土整備部 河川課	木賊川広域河川改修事業	盛岡市、 滝沢市	S61	R19	13,748	③
3	県土整備部 河川課	北上川（上流）広域河川改修事業	岩手町	H23	R11	8,300	②

※再評価の要件：

- ① 事業に着手した年度から起算して5年度内に未着工の事業
- ② 事業に着手した年度から起算して10年度内に完了が見込まれない事業
- ③ 再評価を行った年度の翌年度から起算して5年度又は10年度内に完了する見込みがない事業（再々評価、再々々評価）
- ④ 事業の準備又は実施計画に係る調査に要する費用が予算に計上された年度から起算して5年度内に事業に着手する見込みがない事業（地域高規格道路及びダム事業に限る）
- ⑤ 社会経済情勢の急激な変化、事業計画の重要な変更等により、再評価を実施する必要があると判断した事業（随時再評価）
- ⑥ 国の補助に係る事業の評価に関して国から別に指針等が示された場合で、当該指針等に従って評価を実施する必要があると判断した事業

大規模事業評価地区 位置図 (R2.7 諮問)



大規模事業評価関係資料

大規模公共事業 再評価

番号	担当部局等	事業名	地区名等	ページ
1	県土整備部 道路建設課	地域連携道路整備 事業（地域密着型）	一般県道大ヶ生徳田線 徳田橋	11-20
2	県土整備部 河川課	広域河川改修事業	木賊川	21-31
3	県土整備部 河川課	広域河川改修事業	北上川（上流）	33-43

大規模公共事業評価再評価調書の概要

(徳田橋 地域連携道路整備事業(地域密着型))

担当部署: 県土整備部 道路建設課

1 事業概要 (路線名: 一般県道大ケ生徳田線、所在市町村: 盛岡市、矢巾町)

○事業目的: 一般県道大ケ生徳田線は、盛岡市大ケ生と矢巾町西徳田を結び、北上川を渡る徳田橋 (S37 架橋) は、盛岡市の住宅地と矢巾町市街地を結ぶ通勤通学ルートであるため、地域住民の生活道路としての役割を担っている。

また、令和元年9月には岩手医科大学附属病院が矢巾町西徳田地区へ移転し、救急搬送ルートとしても重要な路線である。

しかし、当該地区に架橋されている徳田橋は老朽化に伴う床版や伸縮装置の補修のため交通規制が生じていること、幅員狭小のために大型車のすれ違いが困難となっており、近隣工業団地からの生産品の搬出等に支障があることなど、円滑な交通の支障となっている。

このことから、現道の徳田橋を架替え、また前後区間についても道路改良を行うことにより、橋梁の老朽化の解消及び大型車すれ違い困難箇所の解消や歩行者等の安全性、快適性が向上されることにより安全で円滑な交通機能が確保される。

○事業内容: 計画延長 1,200m 計画幅員: 6.5(16.0)m 橋梁延長 365.0m

○事業期間: 平成 23 年度～令和 10 年度(事前評価時: 令和5年度)

○総事業費: 9,065 百万円(前回評価時: 6,500 百万円)

令和2年度までの投資額: 5,017 百万円、進捗率 55.3%

2 事業の進捗状況等

○左岸側 A1 橋台及び橋脚全 5 基が完成しており、令和2年7月までには右岸側の A2 橋台工事及び上部工工事が契約済みであり、当該橋梁前後区間の道路改良工事についても一部着手している。

○用地取得率は 91% であり、残りの用地取得についても交渉が進んでいることから、事業を進める目処が立っている。

3 社会経済情勢等の変化

○令和元年9月には岩手医科大学附属病院が矢巾町西徳田地区へ移転し、救急搬送ルートとしての役割を担っていることから、早期の供用開始を求められている。

○当該区間は、盛岡市や矢巾町等から整備促進を求める要望がある。

4 コスト縮減対策及び代替案

○コスト縮減対策は、橋梁の主桁規格や桁数の見直しや使用材料の規格変更により、約 94 百万円の縮減を図ることとしている。

○事業進捗率は 55.3%(事業費ベース) であり、現時点で予想される社会経済情勢、自然環境等の大きな変化が無い場合、代替案立案の可能性は無い。

5 総合評価

○事業の進捗率は 55.3% (事業費ベース) である。

○「事業の進捗状況等」については、総事業費の変更と年次計画の変更はあるものの、用地取得率は 90% を超え、河川管理者との協議も整っており、橋梁及び道路改良工事を順調に推進している。

○「社会経済情勢等の変化」については、令和元年9月に岩手医科大学附属病院が矢巾町西徳田地区へ移転し、当路線が救急搬送ルートとしての重要な役割を担っていることから、早期の供用開始が求められている。

○以上のことから、総合評価を「事業継続」とした。

事業名	地域連携道路整備事業 (地域密着型)	補助	単独	担当部課名	県土整備部道路建設課
路線名等	おおがゆうとくたせん 一般県道大ケ生徳田線	地区名	とくたばし 徳田橋	市町村	盛岡市、矢巾町

〔事業根拠法令等： 道路法第15条、第56条〕

事業概要

(1) 事業目的

- 路線の位置付け
 - ・一般県道大ケ生徳田線は、盛岡市大ケ生を起点とし、矢巾町西徳田に至る路線であり、北上川を渡り、一般国道4号や盛岡南IC等の交通拠点と一般国道396号を結ぶ重要な幹線道路である。
 - ・北上川以東の盛岡市の住宅地と矢巾町市街地を結ぶ通勤通学ルートであり、地域住民の生活道路としての役割を担っている。
 - ・令和元年9月には岩手医科大学附属病院が矢巾町西徳田地区へ移転し、救急搬送ルートとしても重要な路線である。
- 事業目的
 - ・当該地区に架橋されている徳田橋（S37架橋）は老朽化に伴う床版や伸縮装置の補修のため交通規制が生じていること、幅員狭小のために大型車のすれ違いが困難となっており、近隣工業団地からの生製品の搬出等に支障があることなど、円滑な交通の支障となっている。
 - ・橋梁の前後区間においても線形不良による見通しが悪く、人身事故が発生しており、安全な通行の支障となっている。
 - ・このことから、徳田橋を架替え、幅員狭小及び線形不良区間を解消し、大型車、救急車両等の通行確保と生活道路としての機能向上を図るとともに地域の産業の向上を支援するものである。
- 整備によって得られる効果
 - ・橋梁の老朽化の解消及び大型車すれ違い困難箇所の解消や歩行者等の安全性、快適性が向上されることにより安全で円滑な交通機能が確保される。

(2) 事業内容

- ・計画延長：L=1,200m、計画幅員：W=6.5(16.0)m、橋梁延長：L=365.0m

(3) 整備目標等

- ・大型車すれ違い困難の解消：L=1,200m
- ・歩行安全性・快適性の向上（歩道設置延長）：L=1,200m（両側歩道）

事業着手	H23年度	事業計画期間	H23	～	R10 R5	用地着手	H26年度	工事着手	H29年度
			(再評価時全体計画期間) (当初全体計画期間)						

事業費	当初計画 総事業費 H23年 (うち用地費)	再評価時 総事業費 R2年 A (うち用地費)	事業費の状況					〔百万円〕	
			H23年～ B	H30年 C	R1年 D	R2年 E	投資事業費 E=B+C+D	進捗率 F=E/A	
	6,500.0 (1,599.0)	9,065.3 (1,270.0)	3,376.7 (1,125.0)	816.7 (0.4)	824.0 (130.0)	5,017.4 (1,255.4)	財源 国庫 2,609.2 県単 1,584.1	55.3%	

事業の進捗状況等

(1) 事業の進捗状況

ア 整備効果の発現状況

- ・供用を開始していないため、整備効果の発現はない。

イ 未着工及び工事遅延等の理由並びに解決の見通し

【事業期間】

①理由
河川管理者との協議結果による工事工程の見直しや、用地取得に時間を要したことに伴い、当初評価時より5年延伸が必要となった。

②解決の見通し（難易度）

- ・下部工7基のうち6基が完成しており、道路改良も一部着手している。
- ・現在進めている下部工工事完成後、切れ目なく上部工工事（令和2年7月契約予定）を実施できる見込みであり、残る用地取得の目処も立っていることから、計画に基づき令和5年度内に効果発現（供用開始）できる見込みが立っている。
- ・旧橋撤去方法については、河川管理者との協議が概ね完了していることから、供用開始後に撤去を進め、令和10年度に完了する見込みである。

○中項目評価は、事業完了年度が事前評価時より5年遅延となるものの、今後は計画に基づき事業進捗が見込めることから「b」とした。

中項目評価 a . **b** . c

事業の進捗状況等

(2) 事業計画の変更の有無及び内容

【事業費】

- ・上部工の設計や施工方法の見直しによる増額
- ①床版工：RC床版→プレキャストPC床版へ設計変更
- ②高欄工：景観検討委員会による防護柵の追加
- ③仮設工：河川協議による仮設範囲の拡大等
- ・労務費や資材単価等の上昇による増額

○金額が増額となったものの、事業内容等に大幅な変更はないため中項目評価を「b」とした。

中項目評価 a . **b** . c

○中項目評価が「b」、「b」であることから、大項目評価を「BB」とした。

評価 AA . A . **BB** . B . C

(1) 事業に関する社会経済情勢

ア 全国の状況

- ・東日本大震災津波や熊本地震、九州北部豪雨等による「被災地の復旧・復興」、「国民の安全・安心の確保」、「生産性の向上と新需要の創出による成長力の強化」及び「豊かで活力ある地域づくり」の4分野に重点化し、施策効果の早期発現を図ることとしている。
- ・近年激甚化している災害により全国で大きな被害が頻発している状況から、平成30年12月に閣議決定された「防災・減災、国土強靱化のための3ヶ年緊急対策」について、集中的に取り組んでいくこととしている。

イ 本県内の状況

- ・「いわて県民計画」においては、産業を支える社会資本の整備や安全で安心な暮らしを支える社会資本の整備を重点的な政策の柱として掲げており、この中で道路整備は、地域産業の競争力の向上を目指し、工業製品や農林水産物等の物流の円滑化を図る幹線道路ネットワークを構築することや、地域間の交流・連携の基盤となる広域振興圏相互や隣接県を結ぶ道路の整備を推進するとともに、通勤・通学などの日常生活を支える道づくりを進めることとしている。

ウ 施工地域における状況

- ・盛岡市、矢巾町等より当該道路の整備促進について要望がある。
- ・令和元年9月、矢巾町西徳田地区に岩手医科大学附属病院が移転。

○当該事業のあり方についての議論や見直しの検討がないことから、中項目評価を「a」とした。

中項目評価 (a) . b . c

(2) 事業に関する評価指標の推移

評価指標		配点	事業着手時 評点(A) H23	今回再評価時 評点(B) R2	増減 (B)-(A)	備考
必要性	車道等幅員	5	5 (現況6.0m)	5 (現況6.0m)	0	6.0m<既定値9.5m-2m
	曲線半径	5	3 (現況105m)	3 (現況105m)	0	105m<既定値150m
	縦断勾配	5	0 (現況4.0%)	0 (現況4.0%)	0	4%<既定値5%
	歩道設置の必要性	3	3 (必要)	3 (必要)	0	※1
	混雑度	2	0 (混雑度0.99)	0 (混雑度0.74)	0	
	定時性	2	2 (14.5km/h)	2 (11.6km/h)	0	11.6km/h≥10.0km/h
	事故率	3	3 (67.5件/億台キロ)	1 (17.7件/億台キロ)	-2	17.7件/億台キロ <50.0件/億台キロ
	過疎地域等の振興	5	0 (該当外)	0 (該当外)	0	
計	30	16	14	-2		
重要性	ネットワークの位置付け	5	2 (該当外)	2 (該当外)	0	
	産業振興、生活支援	15	15 (5項目)	15 (5項目)	0	※2
	計	20	17	17	0	
緊急性	関連事業の有無	5	5 (岩手医科大学)	5 (岩手医科大学)	0	岩手医科大学附属病院移転事業
	冠水対策、主要渋滞ポイント、老朽橋、通行不能区間、通行危険箇所等	5	5 (老朽橋)	5 (老朽橋)	0	老朽橋(徳田橋)
	部分供用の有無	2	0 (無)	0 (無)	0	
	10km以内に迂回道路	3	0 (有)	0 (有)	0	
計	15	10	10	0		
効率性	費用便益比(B/C)	20	20 (B/C=3.0)	18 (B/C=1.9)	-2	
熟度	用地取得の進捗状況	3	2 (50%)	3 (91%)	1	
	地元要望	12	12 (有)	12 (有)	0	
	計	15	14	15	1	
計	100	77	74	-3	(今回再評価時/前回再評価時) 96%	

※1 : 通園通学路指定、指定見込み、前後区間連続性確保

※2 : 製造業支援、観光支援、救急医療アクセス、公共施設アクセス、通園通学路の安全性向上

○ 費用便益分析

費用便益分析手法:費用便益分析マニュアル(2018(H30)年2月)、道路投資の評価に関する指針(案)第1編(1998(H10)年6月)、第2編(1999(H11)年11月) (単位:百万円)

区 分		事業着手時 H23年	再評価時 R2年	
費用項目	改築費	4,873.1	8,409.5	
	維持費	46.5	58.9	
	総費用(C)	4,919.6	8,468.4	
便益項目	3便益	時間短縮便益	8,748.5	
		走行経費減少便益	946.1	
		事故減少便益	45.0	
	①	9,739.6	6,825.2	
	その他便益	環境改善便益	-2.5	
		拡張便益	4,836.4	
	②	4,833.9	9,573.0	
	小計(①+②)	14,573.5	16,398.2	
	修正便益	③	5,144.4	6,669.5
	総便益	①+②+③	19,717.9	23,067.7
費用便益比(B/C) B(①+②)/C		3.0	1.9	
(参考)修正費用便益比 B(①+②+③)/C		4.0	2.7	
参考 将来交通量		9,200台/日(R12)	12,700台/日(R12)	

※費用便益分析において地域特性等考慮すべき特記事項

- ・参考として、地域修正係数による修正便益を考慮したB/Cを算出している。

○ 関連する開発プロジェクト等の状況

- ・特になし。

○各評価指標の評点の合計が、事業着手時の90%以上であることから、中項目評価を「a」とした。

中項目評価 (a) . b . c

(3) 自然環境等の状況及び環境配慮事項

ア 動植物、地形・地質、歴史文化、景観等の状況及び岩手県自然環境保全指針による保全区分

- ・岩手県自然環境保全指針による保全区分 E
- ・希少野生動植物生息の有無 なし
- ・埋蔵文化財包蔵地の有無 なし
- ・その他:景観検討委員会の設立(H22.2.23設立)

イ 環境配慮事項及び環境等への配慮に要する事業費

- ・実施事業にあたり、広域局で開催される希少野生動植物調査検討委員会に諮り、有識者より施工への意見等はない。

《環境等への配慮に要する経費》

- ・再生AS合材や再生砕石を使用(約82,724千円)
- ・道路環境調査の実施(約5,238千円)
- ・切土・盛土については植生緑化(248千円)

○自然環境保全指針の「優れた自然」の保全区分毎の保全方向に沿って積極的な対応をしていることから、中項目評価を「a」とした。

中項目評価 (a) . b . c

○中項目評価が「a」、「a」、「a」であることから、大項目評価を「AA」とした。

評 価 (AA) . A . B . C

(1) コスト削減対策の実施状況及び今後の可能性

- ・主桁の規格及び桁数の見直しによる削減額 約93,000千円
- ・使用材料の規格変更による削減額 約 1,200千円

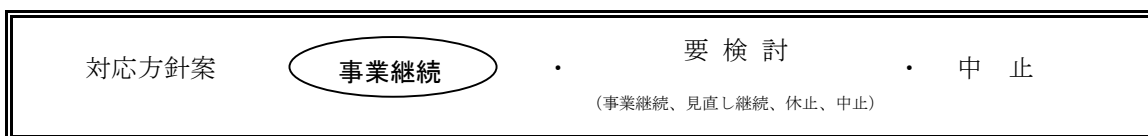
(2) 代替案立案の可能性

代替案として考えられる他の事業手法

事業区間のルートは、下記理由により代替案立案の可能性はない。

- ・都市計画決定済みのルートであること。
- ・橋梁前後の用地は約9割取得済みであること。
- ・下部工は7基のうち6基が完成しており、令和3年度に下部工全てが完成する見込みであること。

(1) 総合評価



(事業名) 地域連携道路整備事業 (地域密着型) 一般県道大ケ生徳田線 徳田橋

着手年度	完了予定年度	投資事業費 (百万円)	進捗率 (%)	(1) 事業進捗状況			(2) 社会経済情勢			参考		
				進捗状況	計画変更		社会経済	評価指標	自然環境	評点	B/C	
H23	R10	5,017	55.3%	BB	b	b	AA	a	a	a	74	1.9

(修正B/C=2.7)

○総合評価に係るコメント

【再評価の総括】

- ・「事業の進捗状況等」については、総事業費の変更と年次計画の変更はあるものの、用地取得率は90%を超え、河川管理者との協議も整っており、橋梁及び道路改良工事を順調に推進している。
- ・「社会経済情勢等の変化」については、令和元年9月に岩手医科大学附属病院が矢巾町西徳田地区へ移転し、当路線が救急搬送ルートとしての重要な役割を担っていることから、早期の供用開始を求められている。
- ・以上のことから「事業継続」としたものである。
- ・なお、評価基準年以降の総費用、総便益により算出したB/C (残事業B/C) は、4.0となる。

※評価対象事業の位置図、計画平面図、標準横断図等を添付のこと。

大規模公共事業 再評価調書 (付表)

事業名	地域連携道路整備事業 (地域密着型)		補助・単独	担当部課名	県土整備部道路建設課
路線名等	一般県道大ヶ生徳田線 <small>おおがゆうとくたせん</small>	地区名	とくたばし 徳田橋	市町村	盛岡市、矢巾町

- 1 現在までの事業の経緯等
- ・H 9年度 概略設計
 - ・H11年度 沿線の事業者計画説明
 - ・H12年度 橋梁予備設計
 - ・H17年度 都市計画変更決定 (昭和49年都市計画決定)
 - ・H21年度 道路予備設計、景観検討委員会設立
 - ・H23年度 国庫補助事業による事業採択
- ・H26年度 用地買収開始
 - ・H29年度 工事着手
 - ・R 1年度 橋脚全5基完成
- 2 住民意見の状況及びこれに対する対応
- ・当該工区については、盛岡市及び矢巾町より、当該道路の整備促進に要望があり、今後も引き続き道路整備を推進していくこととしている。
- (近年の要望状況)
- 国民民主党岩手県総支部連合会 (R1年12月25日)
 - 滝沢市 (R1年7月22日)
 - 盛岡市 (R1年8月2日)

- 3 費用便益分析の詳細 (算定方法、算出根拠等)
- 費用便益分析手法:費用便益分析マニュアル (H30年2月)、道路投資の評価に関する指針 (案) 第1編 (H10年6月)、第2編 (H11年11月) (単位: 百万円)

区 分	事業着手時 H23年	今回再評価時		備考
		R2年	残事業B/C	
費用項目	改築費	4,873.1	8,409.5	3,995.5
	維持費	46.5	58.9	58.9
	総費用 (C)	4,919.6	8,468.4	4,054.4
便益項目	時間短縮便益	8,748.5	6,668.6	6,668.6
	走行経費減少便益	946.1	118.7	118.7
	事故減少便益	45.0	37.9	37.9
	3便益 ①	9,739.6	6,825.2	6,825.2
	環境改善便益	-2.5	1.3	1.3
	拡張便益	4,836.4	9,571.7	9,571.7
	その他便益 ②	4,833.9	9,573.0	9,573.0
	小計 (①+②)	14,573.5	16,398.2	16,398.2
修正便益 ③	5,144.4	6,669.5	6,669.5	
総便益 ①+②+③	19,717.9	23,067.7	23,067.7	
費用便益比 (B/C)	B(①+②)/C	3.0	1.9	4.0
(参考)修正費用便益比	B(①+②+③)/C	4.0	2.7	5.7

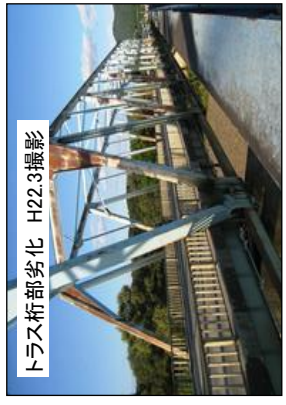
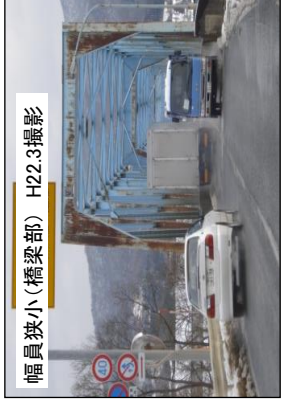
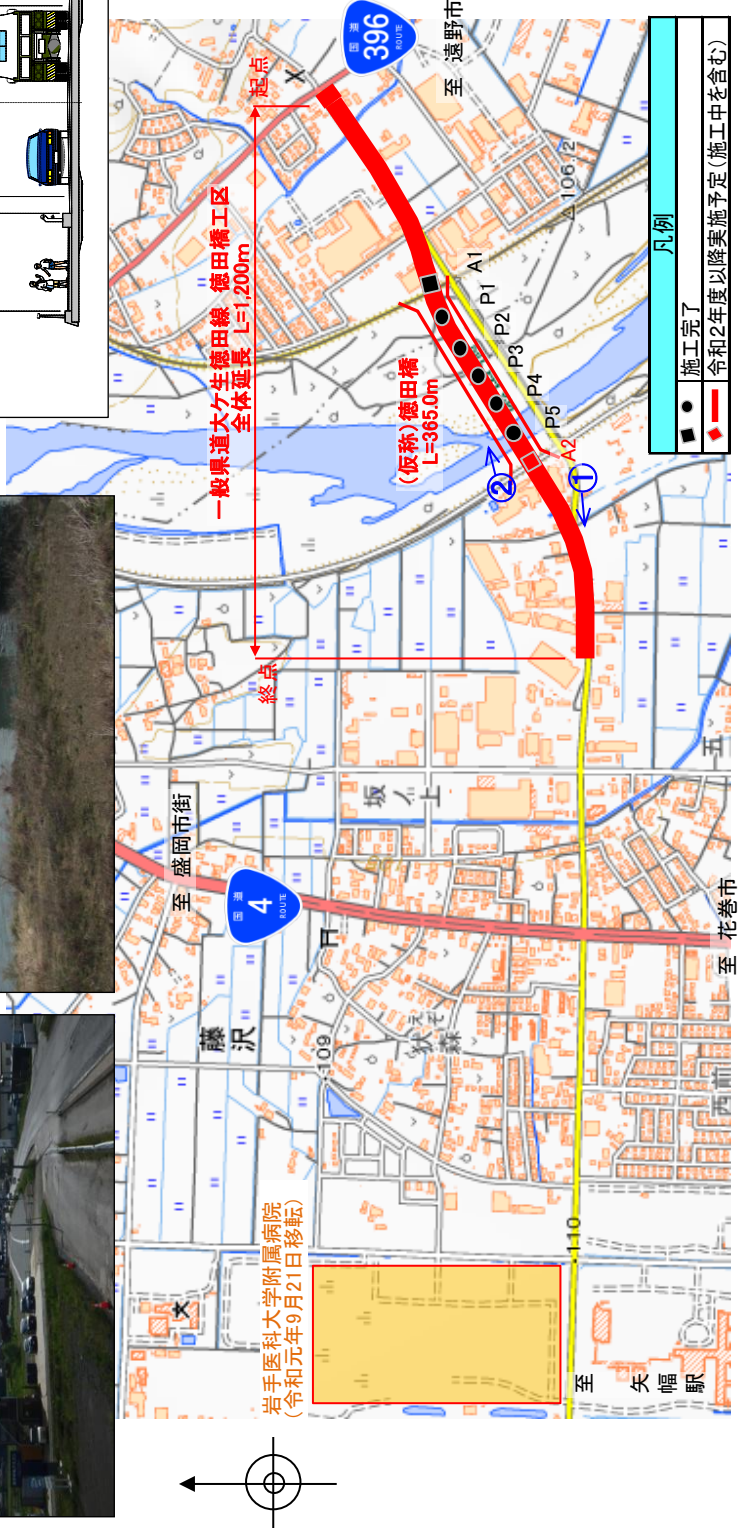
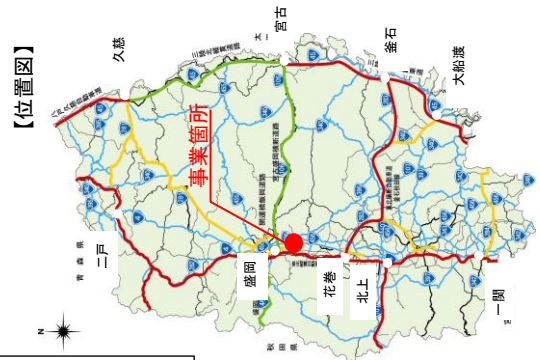
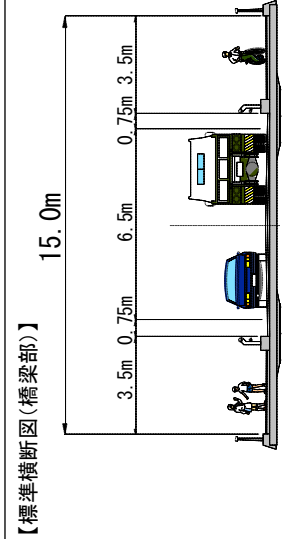
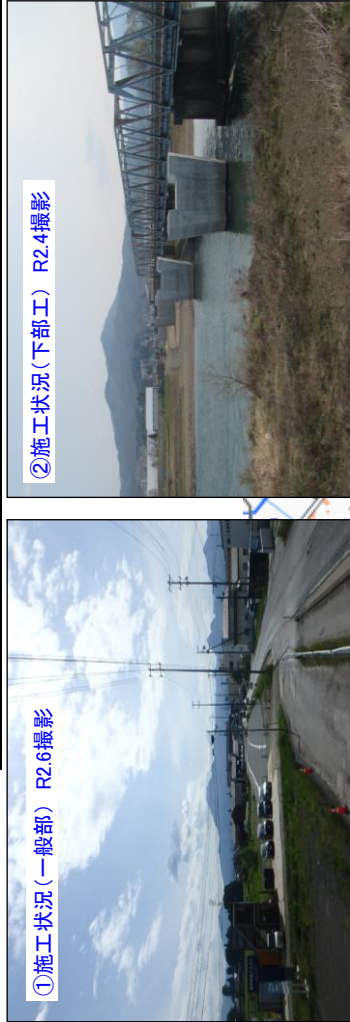
参考 将来交通量 9,200台/日 (R12) 12,700台/日 (R12)

- ①改築費: 道路建設に要する費用を基準年において現在価値化したもの。
- ②維持費: 道路の供用開始後50年間における維持管理費を基準年において現在価値化したもの。
- ③時間短縮便益: 道路の供用開始後50年間における自動車に乗車していなければ、生産活動を行うことによって産み出されるであろう価値 (資源価値)、または自動車に乗車している時間を、他の目的に使用できるなら支払ってもよいと思う金額 (行動価値) を、基準年において現在価値化したもの。
- ④走行経費減少便益: 道路の供用開始後50年間における燃料費、オイル費、タイヤ・チューブ費等の減少効果を、基準年において現在価値化したもの。
- ⑤事故減少便益: 道路の供用開始後50年間における人身事故、物損事故、救急や事故処理などに伴う公的損害、及び事故により発生する交通渋滞による損失の減少効果を、基準年において現在価値化したもの。
- ⑥環境改善便益: 道路の供用開始後50年間における大気汚染、騒音及び地球温暖化の道路整備による環境改善効果を、基準年において現在価値化したもの。
- ⑦拡張便益: 道路の供用開始後50年間における道路走行時の快適性、救急医療や消防等へのアクセス確保による緊急時に対する安心感などの効果を、基準年において現在価値化したもの。
- ⑧修正便益: 所得水準や物価基準といった地域間格差を考慮し、東京を基準 (1.0) とした各地域別の地域修正係数を乗じたもの。

- 4 環境対策の具体的内容
- 専門家による現地調査の結果により、施工についての指示事項等はない。

※評価対象事業の位置図、計画平面図、標準横断面図等を添付のこと。

地域連携道路整備事業(地域密着型) (一)大々生徳田線 徳田橋 実施状況図



費用対効果計算書

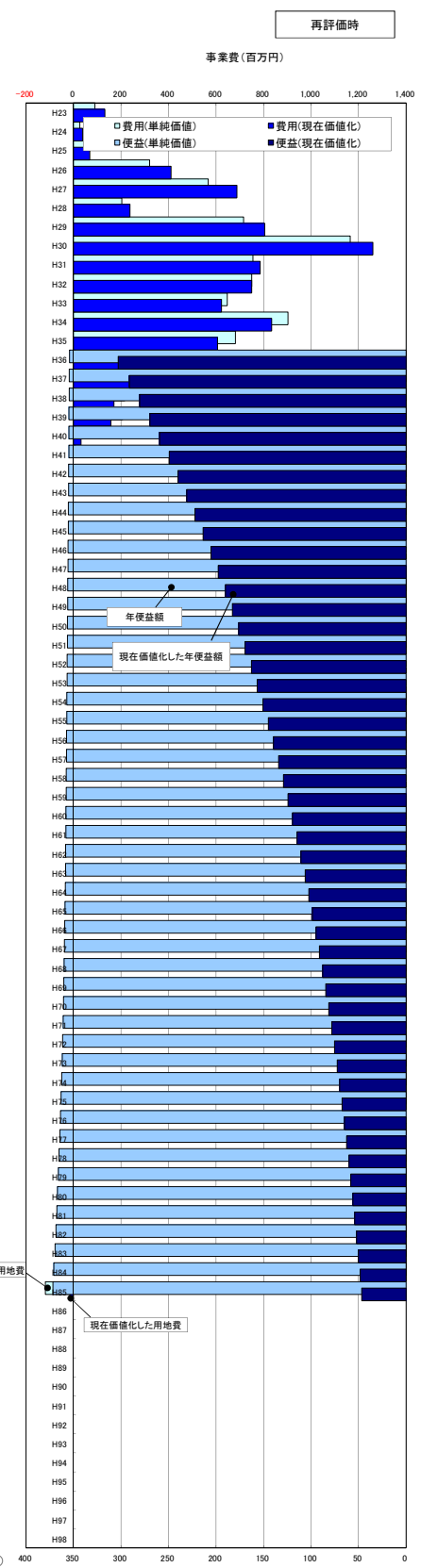
路線名: 大ヶ生徳田線			地区名: 徳田橋				単位: 百万円		
再評価年次	年次	現在価値割引率	GDPデフレーター	費用		便益			
				建設費		維持管理費			
				費用	現在価値	費用	現在価値	便益額	現在価値
-13	H23	1.42331	99.8	90	131.9	0	0.0	0.0	0.0
-12	H24	1.36857	99.0	27	38.4	0	0.0	0.0	0.0
-11	H25	1.31593	99.0	50	68.3	0	0.0	0.0	0.0
-10	H26	1.26532	101.5	321	411.4	0	0.0	0.0	0.0
-9	H27	1.21665	103.0	567	688.5	0	0.0	0.0	0.0
-8	H28	1.16986	102.8	203	237.5	0	0.0	0.0	0.0
-7	H29	1.12486	102.8	716	805.4	0	0.0	0.0	0.0
-6	H30	1.08160	102.8	1,165	1,260.1	0	0.0	0.0	0.0
-5	H31	1.04000	102.8	756	786.2	0	0.0	0.0	0.0
-4	H32	1.00000	102.8	750	750.0	0	0.0	0.0	0.0
-3	H33	0.96154	102.8	648	623.1	0	0.0	0.0	0.0
-2	H34	0.92456	102.8	903	834.9	0	0.0	0.0	0.0
-1	H35	0.88900	102.8	682	606.3	0	0.0	0.0	0.0
0	H36	0.85480	102.8	502	429.1	3.084	2.6	354.2	302.8
1	H37	0.82193	102.8	479	393.7	3.084	2.5	354.3	291.2
2	H38	0.79031	102.8	216	170.7	3.084	2.4	354.5	280.2
3	H39	0.75992	102.8	207	157.3	3.084	2.3	354.6	269.5
4	H40	0.73069	102.8	43	31.4	3.084	2.3	354.8	259.2
5	H41	0.70259	102.8	0	0.0	3.084	2.2	354.9	249.3
6	H42	0.67556	102.8	0	0.0	3.084	2.1	355.1	239.9
7	H43	0.64958	102.8	0	0.0	3.084	2.0	355.2	230.7
8	H44	0.62460	102.8	0	0.0	3.084	1.9	355.4	222.0
9	H45	0.60057	102.8	0	0.0	3.084	1.9	355.5	213.5
10	H46	0.57748	102.8	0	0.0	3.084	1.8	355.7	205.4
11	H47	0.55526	102.8	0	0.0	3.084	1.7	355.8	197.6
12	H48	0.53391	102.8	0	0.0	3.084	1.6	356.0	190.1
13	H49	0.51337	102.8	0	0.0	3.084	1.6	356.1	182.8
14	H50	0.49363	102.8	0	0.0	3.084	1.5	356.3	175.9
15	H51	0.47464	102.8	0	0.0	3.084	1.5	356.4	169.2
16	H52	0.45639	102.8	0	0.0	3.084	1.4	356.6	162.7
17	H53	0.43883	102.8	0	0.0	3.084	1.4	356.7	156.5
18	H54	0.42196	102.8	0	0.0	3.084	1.3	356.9	150.6
19	H55	0.40573	102.8	0	0.0	3.084	1.3	357.1	144.9
20	H56	0.39012	102.8	0	0.0	3.084	1.2	357.2	139.4
21	H57	0.37512	102.8	0	0.0	3.084	1.2	357.4	134.1
22	H58	0.36069	102.8	0	0.0	3.084	1.1	357.5	128.9
23	H59	0.34682	102.8	0	0.0	3.084	1.1	357.7	124.1
24	H60	0.33348	102.8	0	0.0	3.084	1.0	357.8	119.3
25	H61	0.32065	102.8	0	0.0	3.084	1.0	358.0	114.8
26	H62	0.30832	102.8	0	0.0	3.084	1.0	358.1	110.4
27	H63	0.29646	102.8	0	0.0	3.084	0.9	358.3	106.2
28	H64	0.28506	102.8	0	0.0	3.084	0.9	358.6	102.2
29	H65	0.27409	102.8	0	0.0	3.084	0.8	358.8	98.3
30	H66	0.26355	102.8	0	0.0	3.084	0.8	359.1	94.6
31	H67	0.25342	102.8	0	0.0	3.084	0.8	359.4	91.1
32	H68	0.24367	102.8	0	0.0	3.084	0.8	359.7	87.6
33	H69	0.23430	102.8	0	0.0	3.084	0.7	360.1	84.4
34	H70	0.22529	102.8	0	0.0	3.084	0.7	360.5	81.2
35	H71	0.21662	102.8	0	0.0	3.084	0.7	360.9	78.2
36	H72	0.20829	102.8	0	0.0	3.084	0.6	361.4	75.3
37	H73	0.20028	102.8	0	0.0	3.084	0.6	361.9	72.5
38	H74	0.19257	102.8	0	0.0	3.084	0.6	362.5	69.8
39	H75	0.18517	102.8	0	0.0	3.084	0.6	363.1	67.2
40	H76	0.17805	102.8	0	0.0	3.084	0.5	363.7	64.8
41	H77	0.17120	102.8	0	0.0	3.084	0.5	364.4	62.4
42	H78	0.16461	102.8	0	0.0	3.084	0.5	365.1	60.1
43	H79	0.15828	102.8	0	0.0	3.084	0.5	365.9	57.9
44	H80	0.15219	102.8	0	0.0	3.084	0.5	366.7	55.8
45	H81	0.14634	102.8	0	0.0	3.084	0.5	367.6	53.8
46	H82	0.14071	102.8	0	0.0	3.084	0.4	368.5	51.9
47	H83	0.13530	102.8	0	0.0	3.084	0.4	369.5	50.0
48	H84	0.13010	102.8	0	0.0	3.084	0.4	370.6	48.2
49	H85	0.12509	102.8	-118	-14.7	3.084	0.4	371.7	46.5
50	H86	0.12028	102.8	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0
51	H87	0.11566	102.8	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0
52	H88	0.11121	102.8	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0
53	H89	0.10693	102.8	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0
54	H90	0.10282	102.8	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0
55	H91	0.09886	102.8	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0
56	H92	0.09506	102.8	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0
57	H93	0.09140	102.8	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0
58	H94	0.08789	102.8	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0
59	H95	0.08451	102.8	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0
60	H96	0.08126	102.8	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0
61	H97	0.07813	102.8	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0
62	H98	0.07513	102.8	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0
				8,207	8,410	154	59	17,974	6,825 ①
									9,573 ②
									16,398 ①+②

(参考) 修正便益 6,670 ③

総便益B(①+②) 16,398 百万円
 総事業費C 8,469 百万円

B/C= 1.9

(参考) 修正費用便益比
 修正B/C=(①+②+③)/C= 2.7



大規模公共事業再評価調書の概要

(木賊川広域河川改修事業)

担当部課：県土整備部河川課

1 事業概要 (河川名：一級河川北上川水系木賊川、所在市町村：盛岡市、滝沢市)

○事業目的：木賊川は、岩手山の麓に源を発し、北上川に流下する流域面積 20.9 k m²、流路延長 9.2km の河川である。本河川は、元々農業用水路であったことから、断面が狭小で流下能力が小さく、また、流域では宅地開発による都市化が進んでいるため、大雨の都度、家屋への浸水被害等が発生している。このため、河積の拡大を図るとともに、沿川の状況や土地利用等を考慮し、上流部の遊水地及び諸葛川への分水路により、洪水被害を軽減することを目的としている。

○事業内容：延長 6,000m [河川改修 4,400m、分水路 1,600m (分水路工 1,300m、諸葛川改修 300m)、遊水地 31.0ha] 築堤 6,810m³、掘削 173,380m³、護岸 31,270m²

《前回評価時》

延長 6,000m [河川改修 4,400m、分水路 1,600m (分水路工 1,300m、諸葛川改修 300m)、遊水地 31.0ha] 築堤 6,810m³、掘削 173,380m³、護岸 31,270m²

○事業期間：昭和 61 年度～令和 19 年度

○総事業費：13,748 百万円 (令和 2 年度までの投資額 5,406.0 百万円、進捗率 39.3%)

2 事業の進捗状況等

○治水手法は、流域特性や土地利用状況等を考慮し「河川改修＋遊水地＋分水路」とし、分水路の整備にあたっては、平成 19 年度に「緊急対策特定区間」に設定して重点的に予算配分を図り整備を進めた結果、平成 24 年度に分水路が完成し、盛岡市みたけ地区及び滝沢市穴口地区において平成 14 年度と同規模の洪水による被害を解消できる整備効果の発現がなされた。

○今後「遊水地」の建設、本川の「河川改修」と順次実施し、段階的に治水安全度の向上を図ることとしている。

3 社会経済情勢等の変化

○沿川では洪水被害が発生し、近年では、平成 14 年、17 年、19 年、22 年に洪水被害を受けており、地元自治会や盛岡市、滝沢市から事業の推進についての強い要望がある。

○ソフト対策として、重点監視箇所に水位計や監視カメラを設置しており、沿川住民の洪水被害に対する意識の啓発が図られている。

○前回再評価時における費用便益比 (B/C) は、「12.5」だったが、浸水想定区域における世帯数及び事業所の従事者数が増加したことにより、今回の再評価時における費用便益比 (B/C) は、「16.5」へ増加した。

4 コスト縮減対策及び代替案

○遊水地配置設計において、遊水地部の掘削により発生する残土量約 20 万 m³ の低減を図る計画へ見直し、残土運搬処理費用等のコスト縮減が図られた。(縮減額：C=600 百万円) 今後行う工事においても、コスト縮減のための取組みを推進していく。

○代替案の「河川改修」案のみでは約 130 戸の家屋移転が生じることになり、地域社会へ与える影響が大きく、また、経済性でも劣っている。

5 総合評価

○木賊川沿川には、家屋や資産が集中しており洪水氾濫が起きた際には甚大な被害が発生することから、引き続き未着手となっている遊水地、河川改修を進め、治水対策の着実な推進を図っていく必要がある。

○「事業に関する社会経済情勢」、「評価指標」、「自然環境等の状況」に関して大きな変化が見られない。

○以上のことから、県として事業の対応方針を「事業継続」としている。

事業名	広域河川改修事業		(補助)・単独		担当部課名	県土整備部河川課			
路線名等	一級河川北上川水系木賊川 ^{とくきがわ}	地区名				市町村	盛岡市、滝沢市		
事業概要	〔事業根拠法令等： 河川法第9条 〕								
	<p>(1) 事業目的</p> <p>○解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 元々農業用水路であり、断面が狭小で流下能力が不足している。 近年も洪水被害が発生しており、地元自治会や地元盛岡市、滝沢市からも事業の推進についての強い要望がある。 河川改修事業の予算が縮減傾向にあることから、早期に事業効果を発現させるため、段階的に整備を進め、当面の目標を近年最大洪水である平成14年度と同程度の洪水による被害の解消を図ることとし、分水路に着手し平成24年度に完成し供用を開始している。 今後、遊水地の建設、その後、本川の河川改修と順次実施し、段階的に治水安全度の向上を図ることとしている。 流域住民の生命財産を守るため、河川改修工事が必要である。 <p>○整備によって得られる効果</p> <p>本事業により、50年に1度の確率による降雨で発生すると考えられる洪水被害からの解消が図られる。</p>								
	<p>(2) 事業内容</p> <p>全体計画延長6,000m〔河川改修4,400m、分水路1,600m（分水路工1,300m、諸葛川改修300m）、遊水地31.0ha〕 築堤 6,810m³、掘削 173,380m³、護岸 31,270m²</p>								
	<p>(3) 整備目標等</p> <p>治水安全度： 1/50 [治水基準点：北上川合流点]</p>								
事業着手	S61年度	事業計画期間	R19 今回再評価時全体計画期間 S61 ~ R9 前回再評価時全体計画期間 (H13) 当初全体計画期間			用地着手	H9年度	工事着手	H17年度
事業費	当初計画総事業費	前回再評価時総事業費	今回再評価時総事業費	事業費の状況 [百万円]					
	(S61年) (うち用地費)	(H27年) (うち用地費)	(R2年) A (うち用地費)	S61年~ B H30年	R1年 C	R2年 D	投資事業費 E=B+C+D	財源	進捗率 F=E/A
	16,530.0 (5,108.0)	13,748.0 (1,899.5)	13,748.0 (1,899.5)	5,095.0 (918.8)	181.0 (0.0)	130.0 (0.0)	5,406.0 (918.8)	国庫 2,703.0 県 2,703.0	39.3%
事業の進捗状況等	(1) 事業の進捗状況								
	<p>ア 整備効果の発現状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 治水手法は、流域特性や土地利用状況等を考慮し「河川改修+遊水地+分水路」とし、分水路の整備にあたっては、平成19年度に「緊急対策特定区間」に設定して重点的に予算配分を図り整備を進めた結果、平成24年度に分水路が完成し、盛岡市みたけ地区及び滝沢市穴口地区において平成14年度と同規模の洪水による被害を解消できる整備効果の発現がなされた。 今後「遊水地」の建設、本川の「河川改修」と順次実施し、段階的に治水安全度の向上を図ることとしている。 								
	<p>イ 未着工及び工事遅延等の理由並びに解決の見通し</p> <p>①理由：事業期間の延伸は、県内に多発する洪水被害への緊急対応等への予算の重点的な配分及び近年の社会経済情勢から河川改修事業費が減少傾向にあることによるものである。</p> <p>②解決の見通し（難易度）：予算の重点的な配分など、本事業の進捗を阻害する要因はあるが、整備目標である50年に1度の確率による降雨対応を段階的に推進し、早期の整備効果の実現を図っていく。</p> <p>③解決までの対応及び期間：令和19年度までに50年に1度の確率による降雨規模に対する改修を推進する。「遊水地+分水路+本川改修」を柱とする本事業は、H24年5月の分水路完成により現況流下能力が1/1程度から1/5程度に向上しており、第2遊水地の完成により1/10程度、第1遊水地完成後には1/30程度と段階的に治水効果を上げる計画である。また、事業推進が図られるまでの洪水に備え、盛岡市や滝沢市、地域住民に対し、河川の水位観測情報や市長へのホットラインの伝達などのソフト対策を行っていく。</p> <p>○中項目評価は、近年の社会経済情勢による予算の縮減や、県内に多発する洪水被害への緊急対応等への予算の重点的な配分など、本事業の進捗を阻害する要因はあるものの、一定の期間等を要することにより解決できる見込みであり、竣工の見通しがあることから「b」とした。</p>								
	<p>中項目評価 a . (b) . c</p>								
<p>(2) 事業計画の変更の有無及び内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業期間の延伸 (S61~R9 → S61~R19) <p>○中項目評価は、変更の内容が施工区間や主要な工事内容の変更ではなく、事業期間に関する変更であり、大幅な変更ではないため「b」とした。</p> <p>中項目評価 a . (b) . c</p> <p>○中項目評価が「b」、 「b」であることから、大項目評価は「BB」とした。</p>									
<p>評価 AA ・ A ・ (BB) ・ B ・ C</p>									

(1) 事業に関する社会経済情勢

ア 全国の状況

・平成23年3月11日の東日本大震災による津波や、平成30年6、7月に西日本を中心に発生した集中豪雨及び令和元年10月の台風第19号にみられるように、自然災害により尊い人命や家屋等の財産が甚大な被害を受けている。このようなことから、着実にハード整備を進めるとともに、ハザードマップの作成や避難路の確保等、ソフト対策の充実などにより、流域住民の意識啓発に努めていく必要がある。

イ 本県内の状況

・平成23年3月11日の東日本大震災による津波により、沿岸域で6千名弱の死者・行方不明者など、甚大な被害を被っている。また、近年では、平成28年8月の閉伊川(宮古市)、小本川(岩泉町)、平成25年7月の砂鉄川(一関市)、8月の岩崎川(矢巾町)及び雫石川(雫石町)、9月の松川(盛岡市)及び馬淵川(二戸市)等の洪水、平成23年6月の和賀川(西和賀町)の洪水、平成22年7月の北上川(岩手町)の洪水、平成19年9月の岩崎川(矢巾町)の洪水により各河川沿川で大規模な浸水被害が発生していることから、河川・海岸など防災事業に対する関心度が依然として高まっており、効果的な事業の進捗に努める必要がある。

・県では、近年洪水被害が発生した河川等について重点的に整備している。当面の整備目標は、過去の被災流量相当の洪水被害から地域を守ることとし、段階的整備により治水安全度の向上を図ることとしている。

・ハード対策とともにソフト対策として、住民の迅速かつ円滑な避難を促進し尊い人命を守るため、水位計や監視カメラの設置、ホームページや携帯電話による洪水情報の提供、浸水想定区域図の作成、市町村へのハザードマップの作成支援を行っている。事業箇所においては、地域の洪水情報に関する広報を配布するなど、県民に対する防災意識の啓発に努めている。

ウ 施工地区における状況

・当事業区間は、近年では、平成14年、17年、19年、22年と洪水被害を受けており、地域住民の治水事業に対する関心も非常に高く、地元自治会や盛岡市、滝沢市などからも早期改修について知事への要望が行われている。ソフト対策として、重点監視箇所水位計や監視カメラを設置しており、沿川住民の洪水被害に対する意識の啓発が図られている。

○中項目評価は、全国または本県において、河川改修事業のあり方についての議論や見直しの検討がないことから「a」とした。

中項目評価	a	b	c
-------	---	---	---

(2) 事業に関する評価指標の推移

評価指標	配点	事業着手時 評点	前回再評価時 評点 (A)	今回再評価時 評点 (B)	増減 (B)-(A)	備考
必要性	想定氾濫被害額	15 (6,708百万円)	15 (18,463百万円)	15 (23,918百万円)	0	※1
	防護人口	5 (2,7千人)	5 (3,9千人)	5 (4,9千人)	0	
	公共施設・弱者施設	5 (有)	5 (有)	5 (有)	0	病院、高校、中学校、小学校
	輸送施設	5 (有)	5 (有)	5 (有)	0	鉄道、市道
重要性	総合計画上の位置付け	5 (有)	5 (有)	5 (有)	0	指標：河川整備率
緊急性	過去10年間の 水害被害実績	5 (19百万円)	3 (417百万円)	1 (1百万円)	-2	※2 H22
	過去10年間の 被災回数	3 (2回)	3 (3回)	1 (1回)	-2	※2 H22
	他事業関連の 有無	5 (無)	5 (有)	5 (有)	0	民間宅地開発、 公共下水道事業
	流下能力比	2 (14%)	2 (14%)	2 (14%)	0	
効率性	費用便益比 (B/C)	40 (2.7)	40 (12.5)	40 (16.5)	0	※3
熟度	地元の要望	5 (あり)	5 (あり)	5 (あり)	0	
	地元の協力	5 (なし)	0 (なし)	0 (なし)	0	
計	100	70	93	89	-4	(今回評価時/前回評価時) 96%

- ※1 (想定氾濫被害額が増加した理由)
浸水想定区域における世帯数が増加したため。
- ※2 (過去10年間の水害被害実績が減少した理由)
過去10年間では、平成22年9月洪水のみ対象となるため。
- ※3 (費用便益比B/Cが増加した理由)
想定氾濫被害額の増加により便益(B)が増加したため。

○ 費用便益分析

費用便益分析手法：治水経済調査マニュアル（案）平成17年4月 国土交通省河川局

（単位：百万円）

区 分		事業着手時 (基準年：昭和61年度)	前回 再評価時 (基準年：平成27年度)	今回 再評価時 (基準年：令和2年度)
費用 項目	①建設費	12,520	14,138	14,032
	②維持管理費	1,466	1,686	1,689
	③総費用 (C) ①+②	13,986	15,824	15,721
便 益 項 目	④被害軽減の便益	37,422	197,125	258,313
	⑤残存価値	656	503	392
	⑥総便益 (B) ④+⑤	38,078	197,628	258,705
費用便益比 (B/C) ⑥/③		2.7	12.5	16.5

○ 関連する開発プロジェクト等の状況

- ・牧野林・穴口地区宅地開発事業(民間、平成16年度～令和5年度完了予定、開発面積29.8ha)
- ・盛岡市公共下水道事業(盛岡市、昭和62年度～令和6年度完了予定、木賊川関連地区298.0ha)

○中項目評価は、各評価指標の合計が、前回は再評価時の90%以上であることから「a」とした。

中項目評価 (a) . b . c

(3) 自然環境等の状況及び環境配慮事項

ア 動植物、地形・地質、歴史文化、景観等の状況及び岩手県自然環境保全指針による保全区分

- ・岩手県自然環境保全指針による保全区分 A、C、E
- ・希少野生動植物生息の有無 あり
- ・埋蔵文化財包蔵地の有無 なし
- ・その他特記事項 (岩手県自然保護指針による保全区分では一部Aであるが、区分Aの区域では環境調査も実施しており、希少動植物が確認されている。その他の区間では、区分C、Eとなっている。)

イ 環境配慮事項及び環境等への配慮に要する事業費

- ・振興局公共事業等に係る希少野生動植物調査検討委員会への付議状況 付議している

①主な助言内容

- ・動植物の生育基盤となる生態系を保全するため、可能な限り現況環境との保全・復元を図ること。
- ・遊水地計画地内で確認された希少動植物種を保護すること。
- ・希少野生動物の生育環境との共生を図り、生殖生育活動への影響を低減・回避すること。

②対応状況

- ・環境検討委員会の意見を踏まえ、事業実施における周辺環境への影響は可能な限り低減させることとしている。
- ・平成24年度に木賊川遊水地及び周辺の環境調査を行い、希少種等の生息状況を把握するとともに保全方法等について岩手県立大学をはじめ関係機関から助言・指導をいただいている。
- ・前回実施した環境調査のフォローアップを行うため、今年度環境調査を行う予定としている。(現在までの環境調査費用 80百万円)

○中項目評価は、自然環境保全指針の「優れた自然」の保全区分毎の保全方向に沿って積極的な対応をしていることから「a」とした。

中項目評価 (a) . b . c

○評価は、中項目の評価がいずれも「a」であることから、大項目評価は「AA」とした。

評 価

AA . A . B . C

コスト削減対策及び代替案立案の可能性

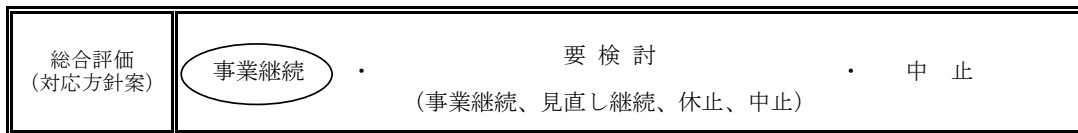
(1) コスト削減対策の実施状況及び今後の可能性

- ・遊水地配置設計において、遊水地部の掘削により発生する残土量約20万m³の低減を図る計画へ見直し、残土運搬処理費用等のコスト削減が図られた。 縮減額：C=600百万円
- ・今後行う工事においても、コスト削減のための取組みを推進していく。

(2) 代替案立案の可能性

- ①代替案として考えられる他の事業手法・工法の比較検討結果
- ・「河川改修」案のみでは約130戸の家屋移転が生じることになり、地域社会へ与える影響が大きく、また、経済性でも劣るため、現計画の「河川改修+遊水地+分水路」が適当であると判断される。
- ②今後における代替案立案の可能性
- ・現時点で予想される社会・自然環境等の大きな変化はないため、代替案立案の可能性はない。

(1) 総合評価



(事業名) 広域河川改修事業 木賊川

着手年度	完了予定年度	事業費 (百万円)	投資 事業費 (百万円)	進捗率 (%)	(1) 事業進捗状況		(2) 社会経済情勢			参考			
					進捗状況	計画変更	社会経済	評価指標	自然環境	評点	B/C		
H61	R19	13,748	5,406.0	39.3%	BB	b	b	AA	a	a	a	89	16.5

○総合評価に係るコメント

- ・木賊川沿川には、家屋や資産が集中しており洪水氾濫が起きた際には甚大な被害が発生することから、引き続き未着手となっている遊水地、河川改修を進め、治水対策の着実な推進を図っていく必要がある。
- ・「事業の進捗状況等」については、事業の期間を10年間延長したが事業内容に変更は無く、一定の期間を要することにより、解決する見込みととなっており、「社会経済情勢等の変化」については、「事業に関する社会経済情勢」、「評価指標」、「自然環境等の状況」に関して大きな変化が見られないことから、大項目の評価は「BB」及び「AA」であり、総合評価(対応方針案)を「事業継続」とした。
- ・なお、評価基準年以降の総費用、総便益により算出したB/C(残事業B/C)は15.8となる。

総合評価

大規模公共事業 再評価調書 (付表)

事業名	広域河川改修事業	補助・単独	担当部課名	県土整備部河川課
路線名等	一級河川北上川水系木賊川 ^{とくきがわ}	地区名	市町村	盛岡市、滝沢市
<p>1 現在までの事業の経緯等</p> <p>昭和61年度 国庫補助による事業採択 平成 9年度 工事全体計画の認可 平成16年度 河川整備計画の認可</p> <p>2 事業を取り巻く社会経済情勢等の変化の具体的説明</p> <p>木賊川沿いは宅地化が進行しているが、事業区間では近年、平成14年、17年、22年と浸水被害が発生しており、地元からは事業の推進についての強い要望が出されている。 一方、財政的には治水事業の予算は縮減されてきている。</p> <p>(近年の浸水被害)</p> <p>平成14年7月11日 床下浸水 99戸、床上浸水 14戸 平成17年8月15日 床下浸水 6戸、床上浸水 1戸 平成22年8月12日 床下浸水 1戸</p> <p>(要望の状況) ※期日は近年のものを記載している。</p> <p>○木賊川・巢子川の抜本的な早期改修を求める会(平成14年11月21日) ○盛岡市(平成26年8月6日) ○滝沢市(平成26年8月20日) ○盛岡市(令和元年8月2日) ○滝沢市(令和元年8月20日)</p> <p>3 住民意見の状況とこれに対する対応</p> <p>本計画については、木賊川を含む「盛岡西圏域河川整備計画」の策定に伴い実施した、次の懇談会等の場で説明を行っており、それに対して住民より意見をいただいている。</p> <p><u>諸葛川・木賊川流域懇談会 3回(平成15年11月6日、12月12日、平成16年2月28日)</u> 懇談会における意見交換等を経て、委員より次のような意見書がまとめられている。</p> <p>○早期に治水効果が現れる河川整備をするべき。 ○流れを阻害している構造物は早期に対策を行うべき。 ○できる限り自然環境の保全・創出に努めるべき。 ○生態系を考慮した河川環境整備が望ましい。 ○河川利用に適した親水空間の創出に努めるべき。 ○川づくりは、今後も住民意見を取り上げながら検討していくべき。 ○河川清掃等の活動は、地域住民に周知する方法を検討するべき。 ○ホームページなどにより情報を提供し、地域との連携に努めるべき。</p> <p><u>盛岡西圏域河川整備計画公聴会 1回(平成16年7月28日)</u> 出席した住民より、木賊川については次のような質問・意見があった。</p> <p>○河川整備計画の今後の流れについて (質問・意見) 計画案策定の後、地元市村長への意見照会等はいつ頃予定されているか。 (回答) 今年度中に、地元市村長への意見照会を行い、河川整備計画の決定、公表まで行いたいと考えている。 (現時点では、計画の決定までは年度内に終了し、公表は新年度となる見込み。)</p> <p>○木賊川の改修の見通しについて (質問・意見) 木賊川の改修は、今の段階でどのような見通しか。 (回答) 遊水地、分水路、河道改修により治水安全度の向上を図ることとしているが、分水路を先行させることで当面の安全は確保されると考えている。</p>				

- 諸葛川への分水による、諸葛川の水位上昇の程度について
(質問・意見)
諸葛川に水を流すようだが、中屋敷町近辺ではどれくらい水位が高くなるのか。
(回答)
水位上昇は30センチ程度となる。

これら懇談会等でいただいた意見には、事業計画に対する反対意見はなかったものと考えている。

4 費用便益分析の詳細（算定方法、算出根拠等）

算出方法：別添

算出根拠：治水経済調査マニュアル(案) 平成17年4月 国土交通省河川局（単位：百万円）

区 分	事業着手時 (基準年：昭和61年度)	前回再評価時 (基準年：平成27年度)	今回再評価時 (基準年：令和2年度)		
				残事業B/C	
費用項目	①建設費	12,520	14,138	14,032	5,159
	②維持管理費	1,466	1,686	1,689	589
	③総費用 (C) ①+②	13,986	15,824	15,721	5,748
便益項目	④被害軽減の便益	37,422	197,125	258,313	90,759
	⑤残存価値	656	503	392	239
	⑥総便益 (B) ④+⑤	38,078	197,628	258,705	90,998
費用便益比 (B/C)	⑥/③	2.7	12.5	16.5	15.8

- ① 建設費：施設整備に要する費用(河川改修費)を整備期間、評価期間で現在価値化して合計したものである。基準年以前の費用は、物価変動を考慮した実質価値に換算した後に現在価値化している。
- ② 維持管理費：毎年定期的に支出される除草等の費用で、完成した施設に要した事業費の0.5%を現在価値化して計上している。
- ④ 被害軽減の便益：施設整備によって想定される年平均被害軽減額を現在価値化して合計したものである。
- ⑤ 残存価値：評価対象期間終了時点における施設等の価値。構造物は価値を10%とし、構造物以外(堤防・用地など)は減価しないものとしている。

5 環境対策の具体的内容

(環境検討委員会からの提言)

諸葛川・木賊川流域懇談会 3回(平成15年11月6日、12月12日、平成16年2月28日)

委員長 小野泰正(岩手大学名誉教授)他8名

提言内容

- 生態系、自然環境、既存樹木の保全
- 自然環境、水湿地性環境、魚類等の生息環境の復元・創造
- 希少動植物の保護
- 水質汚濁防止等の対策

6 代替案（見直し案）の検討内容

「河川改修」案のみでは、約130戸の家屋移転が生じることになり、地域社会へ与える影響が大きく、また、経済性でも劣るため、現計画を選定している。

※評価対象事業の位置図、計画平面図、標準断面図等を添付のこと。

広域河川改修事業

とくさがわ
木賊川

着手年度

昭和61年度

施工市町村名

もりおかし たきざわし
盛岡市、滝沢市

位置図



木賊川
(盛岡市、滝沢市)

遊水地 A= 31.0ha
(用地取得済み A=28.3ha)

分水路 L= 1,300m

洪水吐基礎工

凡 例		
R 1	まで実施済	
R 2	実施予定	
R 3	以降実施予定	
関連事業		
H 1 4 浸水範囲		

宅地開発事業
A=29.8ha
※事業完了済

北陵中学校

盛岡市公共下水道事業

諸葛川改修
L= 300m

全体計画延長 L= 6,000m

河川改修 L= 4,400m

①平成14年7月11日浸水状況



②平成14年7月11日浸水状況



滝沢村 盛岡市

盛岡北高校

運動公園

国道4号

東北本線
102

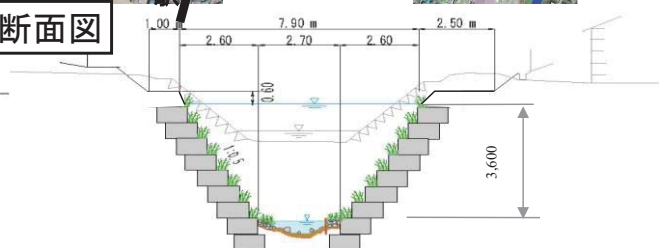
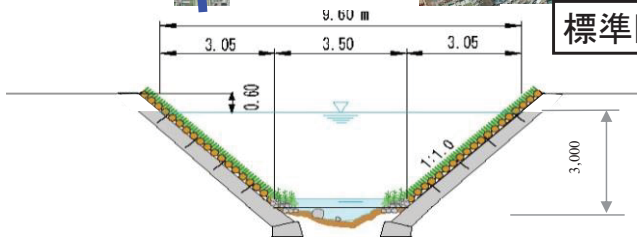
至盛岡駅

至 盛岡市上堂

分水路代表断面図

木賊川代表断面図

標準断面図



大規模公共事業再評価調書の概要

(北上川(上流)広域河川改修事業)

担当部課：県土整備部河川課

1 事業概要 (河川名：一級河川北上川水系北上川、所在市町村：岩手町)

- 事業目的：北上川沼宮内地区は、断面が狭小で流下能力が不足しているため、平成 22 年 7 月の豪雨では家屋 29 戸の浸水被害が発生し、国道 4 号も冠水により通行止めになる等甚大な被害が発生している。このため、河積の拡大を図るとともに、沿川の状況や土地利用等を考慮し、遊水地+河川改修により、洪水被害を軽減することを目的としている。
- 事業内容：計画延長 L=4,600m 築堤 V=59,000m³ 掘削 V=34,000m³ 築堤 A=27,700m²
《前回評価時》
計画延長 L=4,600m 築堤 V=59,000m³ 掘削 V=34,000m³ 築堤 A=27,700m²
- 事業期間：平成 23 年度～令和 11 年度
- 総事業費：8,300 百万円（令和 2 年度までの投資額 5,578.6 百万円、進捗率 67.2%）

2 事業の進捗状況等

- 浸水被害のネックとなっている橋梁の架け替え工事を進めており、増水時の流木等による浸水被害対策に期待できる。また、下流側の住宅地付近の改修は完了しており、流下能力が向上していることから、洪水対策が期待できる。

3 社会経済情勢等の変化

- 当該区間は、平成 22 年 7 月に甚大な浸水被害を受けており、地域住民の治水事業に対する関心も非常に高く、地元自治会や岩手町からも早期改修について強い要望がある。
- ソフト対策として、平成 23 年度に水位計、平成 30 年度に危機管理型水位計を設置しており、令和 2 年度からは簡易型監視カメラの設置・運用を開始し、水位情報を提供している。
- 前回評価時における費用便益比 (B/C) は、「1.7」であった。今回評価時においては、浸水想定区域における延べ床面積が増加したものの、建設費が増加したことから今回の再評価時における費用便益比 (B/C) は、「1.4」へ減少した。

4 コスト縮減対策及び代替案

- 河川改修工事において、工事で発生した土砂を他工区に流用することにより、残土運搬距離及び残土処理費用のコスト縮減が図られた。（縮減額：C=3.0 百万円）今後行う工事においても、コスト縮減のための取組を推進していく。
- 代替案の「放水路」案や「ダム」案は、流域の地形条件や土地利用上からも困難であり、現計画の「河川改修+遊水地」案が妥当と判断される。

5 総合評価

- 北上川沿川には、家屋や資産が集中しており洪水氾濫が起きた際には甚大な被害が発生することから、引き続き遊水地、河川改修を進め、治水対策の着実な推進を図っていく必要がある。
- 「事業に関する社会経済情勢」、「評価指標」、「自然環境等の状況」に関して大きな変化が見られない。
- 以上のことから、県として事業の対応方針を「事業継続」としている。

大規模公共事業 再評価調書

令和2年7月13日作成

事業名	広域河川改修事業	(補助)・単独	担当部課名	県土整備部河川課
路線名等	一級河川北上川水系北上川 <small>きたかみかわ じょうりゅう</small> (上流)	地区名	ぬまくない沼宮内	市町村 岩手町
事業概要	〔事業根拠法令等： 河川法第9条 〕			
	<p>(1) 事業目的</p> <p>○解決すべき課題 北上川沼宮内地区は、断面が狭小で流下能力が不足しているため、平成22年7月の豪雨では家屋29戸の浸水被害が発生し、国道4号も冠水により通行止めになる等甚大な被害が発生した。このため、地元から早期改修を要望されている。</p> <p>○整備によって得られる効果 河川改修工事を行うことにより、平成22年7月に発生した洪水被害と同等規模の降雨に対応することが可能となる。</p>			
	<p>(2) 事業内容</p> <p>計画延長 L=4,600m 築堤 V=59,000m³、掘削 V=34,000m³、護岸 A=27,700m²</p>			
	<p>(3) 整備目標等</p> <p>治水安全度：1/20 [治水基準点：事業起点部]</p>			
	事業着手	H23年度	事業計画期間	H23 ~ R11 今回評価時全体計画期間 当初全体計画期間
事業費	当初計画 総事業費 (H22年) (うち用地費)	今回評価時 総事業費 (R2年) A (うち用地費)	事業費の状況 [百万円]	
			H23年~ H30年 B	R1年 C
			R2年 D	投資事業費 E=B+C+D
	4,500.0 (287.0)	8,300.0 (373.0)	4,629.6 (277.0)	629.0 (12.5)
			320.0 (50.5)	5,578.6 (340.0)
				財源 国庫 2,789.3 県 2,789.3
				進捗率 F=E/A 67.2
事業の進捗状況等	(1) 事業の進捗状況			
	<p>ア 整備効果の発現状況</p> <p>・浸水被害のネックとなっている橋梁の架け替え工事を進めており、増水時の流木等による浸水被害対策に期待できる。また、下流側の住宅地付近の改修は完了しており、流下能力が向上していることから、洪水対策が期待できる。</p>			
	<p>イ 未着工及び工事遅延等の理由並びに解決の見通し</p> <p>工事遅延等なし。 ○中項目評価は、事業の進捗が順調であり、計画どおり確実な竣工が見込まれることから「a」とした。</p>			
	中項目評価			a . b . c
	(2) 事業計画の変更の有無及び内容			
<p>事業計画の大幅な変更はない。 事業費の増は、IGRとの協議により、当初計画していた横断施設を橋梁形式からボックスカルバートに変更したこと及び護岸工、橋梁工等の単価上昇、税率、諸経費率の変化によるものである。</p>				
変更前		変更後		理由
横断施設 (IGR)	815百万円	1,632百万円	+817百万円	構造変更による増
橋梁工	972百万円	1,527百万円	+555百万円	単価上昇による増
護岸工	951百万円	1,359百万円	+408百万円	
土工	607百万円	1,075百万円	+468百万円	
その他工種	1,155百万円	1,594百万円	+439百万円	
諸経費率、税率の変化に伴う増	0百万円	1,113百万円	+1,113百万円	社会的要因による増
合計	4,500百万円	8,300百万円	+3,800百万円	
<p>○中項目評価は、変更の内容が、工法の変更及び単価等の上昇による事業費の増額変更であり、変更の内容が施工区間や主要な工事内容の変更ではなく、大幅な変更ではないことから「b」とした。</p>				
中項目評価			a . b . c	
<p>○中項目評価が「a」、「b」であることから、大項目評価は「A」とした。</p>				
評価		AA . A . BB . B . C		

(1) 事業に関する社会経済情勢

ア 全国の状況

・平成23年3月11日の東日本大震災による津波や、平成30年6、7月に西日本を中心に発生した集中豪雨及び令和元年10月の台風第19号にみられるように、自然災害により尊い人命や家屋等の財産が甚大な被害を受けている。このようなことから、着実にハード整備を進めるとともに、ハザードマップの作成や避難路の確保等、ソフト対策の充実などにより、流域住民の意識啓発に努めていく必要がある。

イ 本県内の状況

・平成23年3月11日の東日本大震災による津波により、沿岸域で6千名弱の死者・行方不明者など、甚大な被害を被っている。また、近年では、平成28年8月の閉伊川（宮古市）、小本川（岩泉町）、平成25年7月の砂鉄川（一関市）、8月の岩崎川（矢巾町）及び雫石川（雫石町）、9月の松川（盛岡市）及び馬淵川（二戸市）等の洪水、平成23年6月の和賀川（西和賀町）の洪水、平成22年7月の北上川（岩手町）の洪水、平成19年9月の岩崎川（矢巾町）の洪水により各河川沿川で大規模な浸水被害が発生していることから、河川・海岸など防災事業に対する関心が依然として高まっており、効果的な事業の進捗に努める必要がある。

・県では、近年洪水被害が発生した河川等について重点的に整備している。当面の整備目標は、過去の被災流量相当の洪水被害から地域を守ることであり、段階的整備により治水安全度の向上を図ることとしている。

・ハード対策とともにソフト対策として、住民の迅速かつ円滑な避難を促進し尊い人命を守るため、水位計や監視カメラの設置、ホームページや携帯電話による洪水情報の提供、浸水想定区域図の作成、市町村へのハザードマップの作成支援を行っている。事業箇所においては、地域の洪水情報に関する広報を配布するなど、県民に対する防災意識の啓発に努めている。

ウ 施工地域における状況

・当事業区間は、平成22年7月に甚大な浸水被害を受けており、地域住民の治水事業に対する関心も非常に高く、地元自治会や岩手町からも早期改修について知事への要望が行われている。また、ソフト対策として平成23年度に水位計、平成30年度に危機管理型水位計を設置しており、令和2年度からは簡易型監視カメラの設置・運用を開始し、水位情報を提供している。

○中項目評価は、全国または本県において、河川改修事業のあり方についての議論や見直しの検討はないことから「a」とした。

中項目評価 a . b . c

(2) 事業に関する評価指標の推移

評価指標		配点	事業着手時 評点(A)	今回評価時 評点(B)	増減 (B)-(A)	備考
必要性	想定氾濫被害額	15	15 (33億円)	15 (54億円)	0	※1
	防護人口	5	4 (822人)	4 (601人)	0	
	公共施設・弱者施設	5	5 (有)	5 (有)	0	岩手町勤労青少年ホーム
	輸送施設	5	5 (あり)	5 (あり)	0	国道4号、I G R
重要性	総合計画上の 位置付け	5	5 (有)	5 (有)	0	指標：河川整備率
緊急性	過去10年間の 水害被害実績	5	5 (2,674百万円)	5 (1,021百万円)	0	※2 H22
	過去10年間の 被災回数	3	2 (2回)	1 (1回)	-1	※2 H22
	他事業関連の有無	5	5 (有)	5 (有)	0	横沢川河川等災害関連事業
	流下能力比	2	2 (50%未満)	2 (50%未満)	0	25%
効率性	費用便益比 (B/C)	40	20 (1.7)	20 (1.4)	0	※3
熟度	地元の要望	5	5 (有)	5 (有)	0	
	地元の協力	5	5 (有)	5 (有)	0	
計		100	78	77	-1	(今回評価時/前回評価時) 99%

※1 想定氾濫被害額が増加した理由：浸水氾濫区域内の家屋評価額 (R2単価) 及び延べ床面積 (R2国土地理院データ) の増による。

※2 H14の被害が評価対象期間 (過去10年間) から外れたことによる。

※3 B/Cが減少した理由：事業費の見直し増による。

社会経済情勢等の変化

○ 費用便益分析

費用便益分析手法:治水経済調査マニュアル(案)平成17年4月 国土交通省河川局

(単位:百万円)

区 分		事業着手時 (基準年:平成21年度)	今回再評価時 (基準年:令和2年度)	備考
費用項目	①建設費	3,537	8,863	※1
	②維持管理費	405	957	※2
	③総費用(C) ①+②	3,942	9,820	
便益項目	④被害軽減の便益	6,811	13,457	※3
	⑤残存価値	21	60	※4
	⑥総便益(B) ④+⑤	6,832	13,517	
費用便益比(B/C) ⑥/③		1.7	1.4	

※1 「建設費」の増は全体事業費の増による。

※2 「維持管理費」増は全体事業費の増による。

※3 「被害軽減の便益」の増は家屋評価額(R2単価)及び延べ床面積(R2国土地理院データ)の増による。

※4 「残存価値」の増は建設費増による。

○ 関連する開発プロジェクト等の状況

- ・横沢川河川等災害関連事業(岩手町、平成22年度～平成24年度)
- ・北上川災害対策等緊急事業(岩手県、平成22年度)

※中項目評価は、各評価指標の評点が前回評価時の90%以上であるため「a」とした。

中項目評価 a . b . c

(3) 自然環境等の状況及び環境配慮事項

ア 動植物、地形・地質、歴史文化、景観等の状況及び岩手県自然環境保全指針による保全区分

- ・岩手県自然環境保全指針による保全区分
- ・希少野生動植物生息の有無
- ・埋蔵文化財包蔵地の有無
- ・その他特記事項

D

なし

なし

イ 環境配慮事項及び環境等への配慮に要する事業費

- ・振興局公共事業等に係る希少野生動植物調査検討委員会への付議状況

付議している

①主な助言内容

- ・汚濁水を川に流さないように措置すること。
- ・人工物を極力減らし、河川の生息空間の確保に努めること。
- ・遊水地を生物保全場所として利用できないか検討すること。

②主な対応状況

- ・濁水防止のため必要に応じて沈砂池を設けながら排水を行う。
- ・護岸を植生可能な護岸ブロックにより施工することにより、周辺景観との調和に配慮している。
- ・遊水地の利用については岩手町と協議をし検討を進めている。

※中項目評価は、自然環境保全指針の「優れた自然」の保全区分毎の保全方向に沿って積極的な対応をしていることから「a」とした。

中項目評価 a . b . c

※中項目評価が、「a」、「a」、「a」であることから大項目評価は「AA」とした。

評 価

AA

 . A . B . C

コスト削減対策及び代替案立案の可能性

(1) コスト削減対策の実施状況及び今後の可能性

・河川改修工事で発生した土砂を他工区に利用することにより、残土運搬距離及び残土処理費用の削減に努めた。削減額 (V=3,500m³、C=3.0百万円)

(2) 代替案立案の可能性

①代替案として考えられる他の事業手法・工法の比較検討結果

・代替案として考えられる放水路やダムによる治水手法は、流域の地形条件や土地利用上から困難であり、河川改修+遊水地による治水対策が妥当と判断される。

②今後における代替案立案の可能性

・現時点において、代替案立案の可能性はない。

(1) 総合評価

総合評価 (対応方針案)	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block;">事業継続</div> ・ 要 検 討 (事業継続、見直し継続、休止、中止)	中 止
-----------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----

(事業名) 広域河川改修事業 北上川

着手年度	完了予定年度	事業費 (百万円)	投資 事業費 (百万円)	進捗率 (%)	(1) 事業進捗状況			(2) 社会経済情勢			参 考		
					進捗状況	計画変更		社会経済	評価指数	自然環境	評点	B/C	
H23	R11	8,300.0	5,578.6	67.2	A	a	b	AA	a	a	a	77	1.4

○総合評価に係るコメント

①再評価の総括

「事業の進捗状況等」については、事業計画に大幅な変更は無く、計画どおり確実な竣工が見込まれることから、今後も事業を推進し、治水安全度の向上を図っていく。

また、「社会情勢等の変化」については「事業に関する評価指標の推移」において、緊急性の指標が減少したが、過去に大規模な洪水被害を受けており、沿川住民の生命及び財産を守るため、整備を進めていく必要がある。また、「自然環境等の状況」に関して大きな変化が見られないことから「事業継続」と評価したものである。

なお、評価基準年以降の総費用、総便益により算出したB/C（残事業B/C）は1.1となる。

②特記事項

特になし。

総合評価

※評価対象事業の位置図、計画平面図、標準横断図等を添付のこと。

大規模公共事業 再評価調書 (付表)

事業名	広域河川改修事業	補助・単独	担当部課名	県土整備部河川課	
路線名等	一級河川北上川水系 <small>きたかみかわ じょうりゅう</small> 北上川 (上流)	地区名	ぬまぐない 沼宮内	市町村	岩手町
<p>1 現在までの事業の経緯等</p> <p>平成22年度 国庫補助による事業採択 平成24年度 一級河川北上川水系河川整備基本方針策定 (H24. 11. 14変更) 平成27年度 一級河川北上川水系 (盛岡北圏内) 河川整備基本方針策定 (H27. 9. 29)</p> <p>2 事業を取り巻く社会経済情勢等の変化の具体的説明</p> <p>近年の社会経済情勢から、国、県予算ともに治水対策事業費は縮減傾向にあるが、北上川では過去に上流部未改修区間で浸水被害が発生していることから、地元から事業の推進についての強い要望が出されている。</p> <p>(近年の浸水被害)</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成14年7月11日 床下浸水0戸、床上浸水1戸 平成22年7月17日 床下浸水14戸、床上浸水15戸 <p>(要望の状況) ※期日は近年のものを記載している。</p> <ul style="list-style-type: none"> 岩手町 (平成26年9月25日) <p>3 住民意見の状況とこれに対する対応</p> <p>本計画については、事業着手に伴い開催した次の懇談会の場で説明を行っており、それに対して住民より意見をいただいている。</p> <p>北上川川づくり懇談会 1回 (平成23年2月10日)</p> <p><主な質問内容></p> <p>1. 河床を掘削するようだが自然環境などへの影響について配慮してほしい。</p> <p>[回答]</p> <p>1. 安全と環境をうまく合わせながら考えていく。</p> <p>北上川川づくり懇談会 2回 (平成23年5月20日)</p> <p><主な質問内容></p> <p>1. 横沢川と北上川の合流部は過去にも溢れそうになったことが何度もあり、改善して欲しい。また田頭川に斜になっているので溢れやすい。改善して欲しい。</p> <p>[回答]</p> <p>1. 今回工事でどちらも改善する予定である。</p> <p>懇談会では、その他に維持管理等の要望もあったが、北上川の改修事業計画に対する反対意見等は無かった。</p>					

4 費用便益分析の詳細（算定方法、算出根拠等）

算出方法：別添

算出根拠：治水経済調査マニュアル（案）平成17年4月 国土交通省河川局（単位：百万円）

区分	事業着手時 (基準年：平成21年度)	今回再評価時		
		(基準年：令和2年度)	残事業B/C	
費用項目	①建設費	3,537	8,863	2,031
	②維持管理費	405	957	223
	③総費用(C) ①+②	3,942	9,820	2,254
便益項目	④被害軽減の便益	6,811	13,457	2,335
	⑤残存価値	21	60	33
	⑥総便益(B) ④+⑤	6,832	13,517	2,368
費用便益比(B/C) ⑥/③		1.7	1.4	1.1

- ①建設費：施設整備に要する費用（河川改修費）を整備期間、評価期間で現在価値化して合計したものである。基準年以前の費用は、物価変動を考慮した実質価値に換算した後に現在価値化している。
- ②維持管理費：治水経済調査マニュアル（案）より、事業費の0.5%を維持管理費とする。
- ④被害軽減の便益：施設整備によって想定される年平均被害軽減額を現在価値化して合計したものである。
- ⑤残存価値：評価対象期間終了時点における施設等の価値。構造物は価値を10%とし、構造物以外（堤防・用地など）は減価しないものとしている。

5 環境対策の具体的内容

希少野生動植物委員会（平成30年5月10日、令和元年6月28日）

意見内容

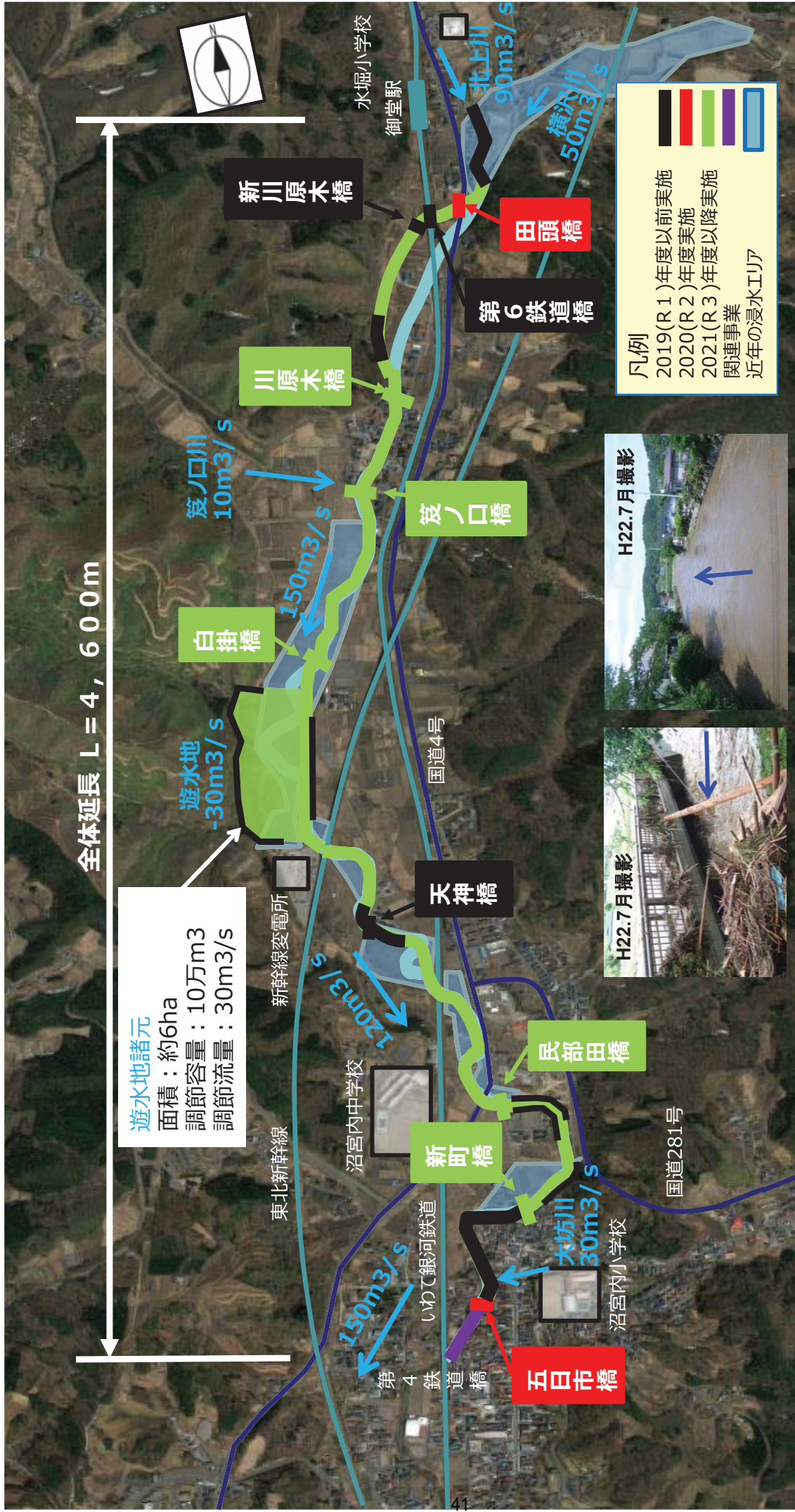
- 水質汚濁防止等の対策
- 希少種を確認した場合の移植、保護
- 魚類等の生息環境の復元

6 代替案（見直し案）の検討内容

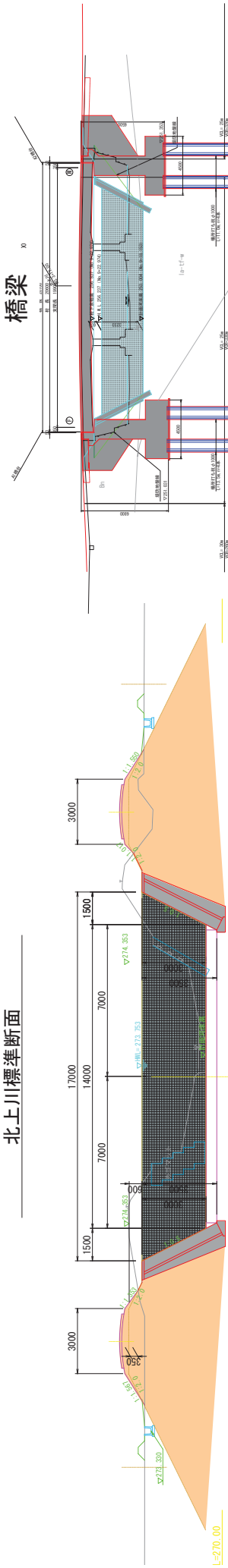
- ①代替案として考えられる他の事業手法・工法の比較検討結果
 - ・代替案として考えられる放水路やダムによる治水手法は、流域の地形条件や土地利用上から困難であり、現計画の「河川改修+遊水地」による治水対策が妥当と判断される。
- ②今後における代替案立案の可能性
 - ・現時点で予想される社会・自然環境等の大きな変化はないため、代替案立案の可能性はない。

※評価対象事業の位置図、計画平面図、標準横断図等を添付のこと。

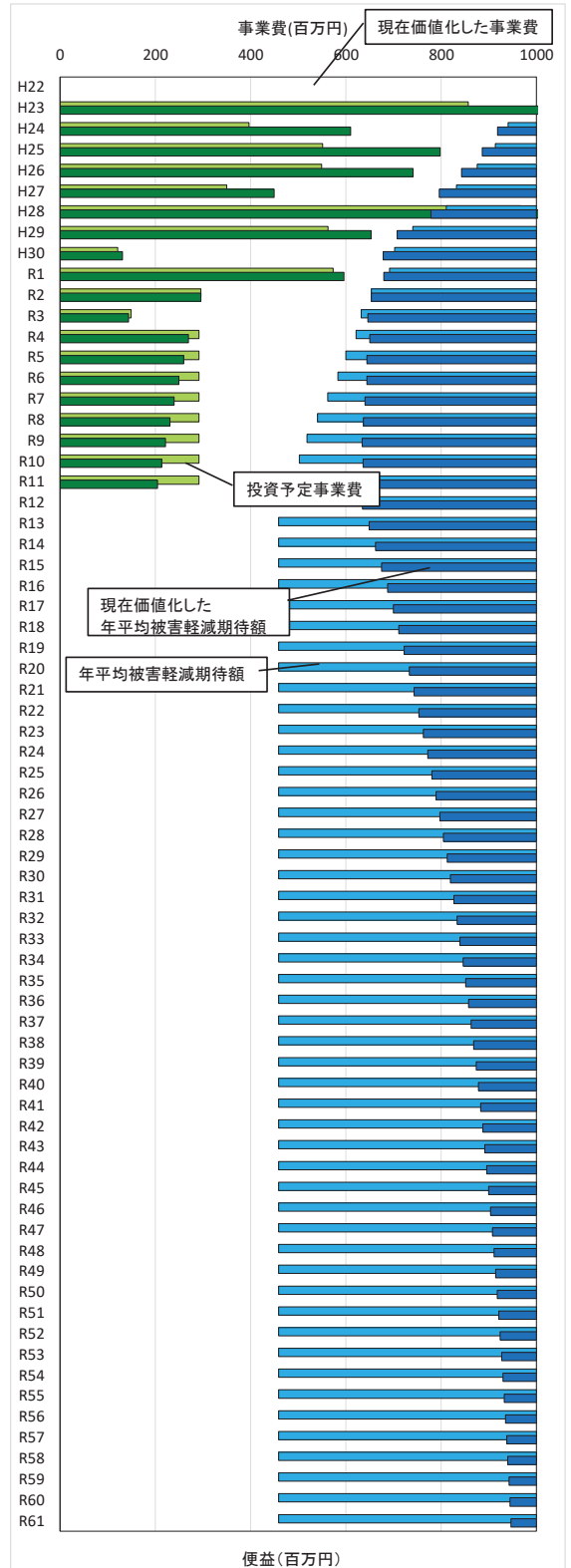
北上川(上流)全体計画位置図



北上川標準断面



年次	年度	t	現在価値化の割引率	便益(百万円)						残存価値⑤	計④+③
				治水		建設費③		維持管理費④			
				便益	現在価値①	事業費	現在価値	費用	現在価値		
整備期間(5年)	H22	-10	1.4802	0	0	0	0	0.00	0.0		
	H23	-9	1.4233	0	0	857	1,364	0.00	0.0		
	H24	-8	1.3686	60	81	396	610	4.28	5.9		
	H25	-7	1.3159	87	114	551	798	6.26	8.2		
	H26	-6	1.2653	124	157	549	741	9.02	11.4		
	H27	-5	1.2167	168	204	350	449	11.76	14.3		
	H28	-4	1.1699	189	222	967	1,195	13.51	15.8		
	H29	-3	1.1249	260	292	562	653	18.34	20.6		
	H30	-2	1.0816	298	322	121	131	21.16	22.9		
	R1	-1	1.0400	308	321	573	596	21.76	22.6		
	R2	0	1.0000	346	346	296	296	24.63	24.6		
R3	1	0.9615	368	354	149	143	26.10	25.1			
R4	2	0.9246	379	350	292	270	26.85	24.8			
R5	3	0.8890	400	356	292	259	28.31	25.2			
R6	4	0.8548	417	356	292	249	29.76	25.4			
R7	5	0.8219	438	360	292	240	31.22	25.7			
R8	6	0.7903	460	363	292	230	32.68	25.8			
R9	7	0.7599	482	366	292	222	34.14	25.9			
R10	8	0.7307	498	364	292	213	35.59	26.0			
R11	9	0.7026	519	365	292	205	37.05	26.0			
R12	10	0.6756	541	365			38.51	26.0			
R13	11	0.6496	541	351			38.51	25.0			
R14	12	0.6246	541	338			38.51	24.0			
R15	13	0.6006	541	325			38.51	23.1			
R16	14	0.5775	541	312			38.51	22.2			
R17	15	0.5553	541	300			38.51	21.4			
R18	16	0.5339	541	289			38.51	20.6			
R19	17	0.5134	541	278			38.51	19.8			
R20	18	0.4936	541	267			38.51	19.0			
R21	19	0.4746	541	257			38.51	18.3			
R22	20	0.4564	541	247			38.51	17.6			
R23	21	0.4388	541	237			38.51	16.9			
R24	22	0.4220	541	228			38.51	16.2			
R25	23	0.4057	541	219			38.51	15.6			
R26	24	0.3901	541	211			38.51	15.0			
R27	25	0.3751	541	203			38.51	14.4			
R28	26	0.3607	541	195			38.51	13.9			
R29	27	0.3468	541	188			38.51	13.4			
R30	28	0.3335	541	180			38.51	12.8			
R31	29	0.3207	541	173			38.51	12.3			
R32	30	0.3083	541	167			38.51	11.9			
R33	31	0.2965	541	160			38.51	11.4			
R34	32	0.2851	541	154			38.51	11.0			
R35	33	0.2741	541	148			38.51	10.6			
R36	34	0.2636	541	143			38.51	10.1			
R37	35	0.2534	541	137			38.51	9.8			
R38	36	0.2437	541	132			38.51	9.4			
R39	37	0.2343	541	127			38.51	9.0			
R40	38	0.2253	541	122			38.51	8.7			
R41	39	0.2166	541	117			38.51	8.3			
R42	40	0.2083	541	113			38.51	8.0			
R43	41	0.2003	541	108			38.51	7.7			
R44	42	0.1926	541	104			38.51	7.4			
R45	43	0.1852	541	100			38.51	7.1			
R46	44	0.1780	541	96			38.51	6.9			
R47	45	0.1712	541	93			38.51	6.6			
R48	46	0.1646	541	89			38.51	6.3			
R49	47	0.1583	541	86			38.51	6.1			
R50	48	0.1522	541	82			38.51	5.9			
R51	49	0.1463	541	79			38.51	5.6			
R52	50	0.1407	541	76			38.51	5.4			
R53	51	0.1353	541	73			38.51	5.2			
R54	52	0.1301	541	70			38.51	5.0			
R55	53	0.1251	541	68			38.51	4.8			
R56	54	0.1203	541	65			38.51	4.6			
R57	55	0.1157	541	63			38.51	4.5			
R58	56	0.1112	541	60			38.51	4.3			
R59	57	0.1069	541	58			38.51	4.1			
R60	58	0.1028	541	56			38.51	4.0			
R61	59	0.0989	541	53			38.51	3.8			
合計				13,457	7,703	8,863		957.1	59.9	9,820.1	

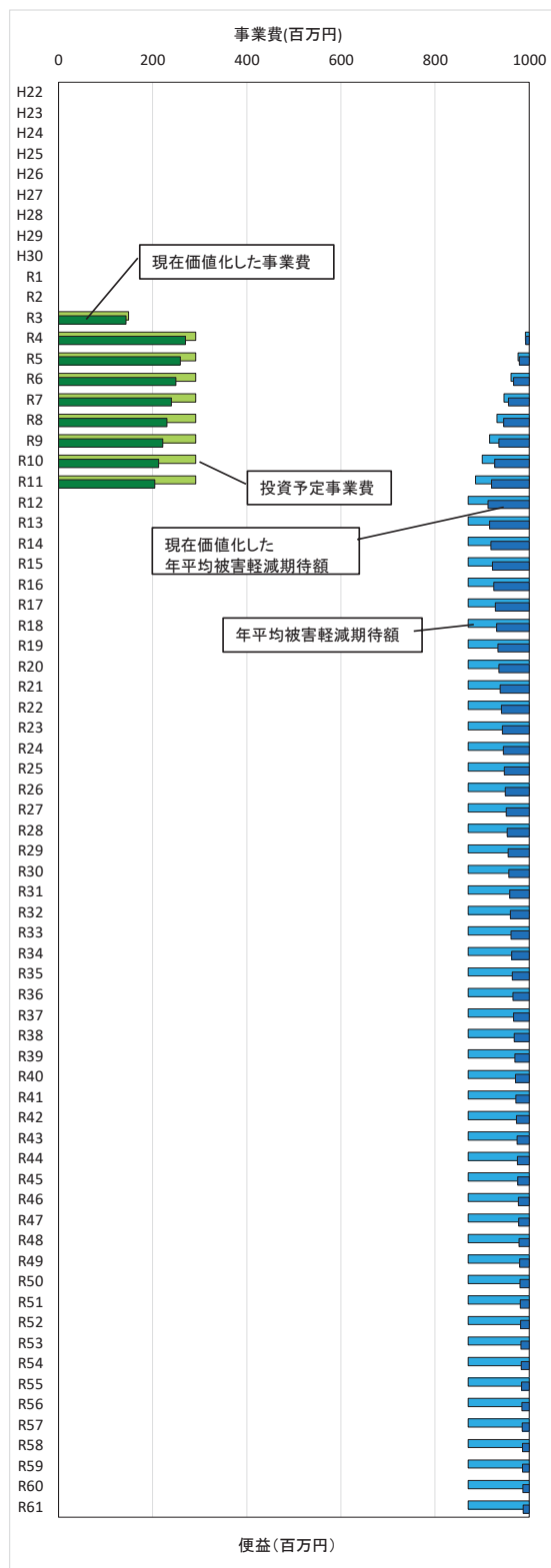


年平均被害軽減期待値 541 建設費 8,863
 年便益の総和 13,457 維持管理費 957
 残存価値 60
 築堤・掘削 (築堤・掘削の総費用) / (1+0.04)^{S+49} = 353/1.04⁶⁰
 護岸等構造物 (護岸等構造物の総費用) * 0.1 / (1+0.04)^{S+49} = 3274 * 0.1 / 1.04⁶⁰
 用地費 14 (用地費の総費用) / (1+0.04)^{S+49} = 217 / 1.04⁶⁰
 総便益B 13,517 (年便益+残存価値)
 総費用C 9,820 (建設費+維持管理費)
 B/C 1.4

注) ・毎年の維持管理費は、河川分の事業費の 0.5% とし、7,724 × 0.005 = 38.61 百万円 とした。

様式-7 費用対効果(残事業) 計算書 (令和2年度評価) 単位:百万円
 水系名: 北上川水系 河川名: 北上川

年次	年度	t	現在価値化の割引率	便益(百万円)									
				治水		建設費③		維持管理費④		残存価値⑤	計④+③		
				便益	現在価値①	事業費	現在価値	費用	現在価値				
整備期間(S)	H22	-10	1.4802			405	合計事業費4963百万円						
	H23	-9	1.4233			490							
	H24	-8	1.3686			396							
	H25	-7	1.3159			551							
	H26	-6	1.2653			549							
	H27	-5	1.2167			350							
	H28	-4	1.1699			967							
	H29	-3	1.1249			562							
	H30	-2	1.0816			121							
	R1	-1	1.0400			573							
	R2	0	1.0000		0	0		0		0.00	0.0		
R3	1	0.9615		0	0	149	143	0.00	0.7				
R4	2	0.9246		8	7	292	270	0.74	2.0				
R5	3	0.8890		23	21	292	259	2.20	3.1				
R6	4	0.8548		39	33	292	249	3.66	4.2				
R7	5	0.8219		53	44	292	240	5.11	5.2				
R8	6	0.7903		69	54	292	230	6.57	6.1				
R9	7	0.7599		84	64	292	222	8.03	6.9				
R10	8	0.7307		100	73	292	213	9.49	7.7				
R11	9	0.7026		114	80	292	205	10.94	0.0				
施設完成後の評価期間(50年)	R12	10	0.6756	130	88			12.40	8.4				
	R13	11	0.6496	130	84			12.40	8.1				
	R14	12	0.6246	130	81			12.40	7.7				
	R15	13	0.6006	130	78			12.40	7.4				
	R16	14	0.5775	130	75			12.40	7.2				
	R17	15	0.5553	130	72			12.40	6.9				
	R18	16	0.5339	130	69			12.40	6.6				
	R19	17	0.5134	130	67			12.40	6.4				
	R20	18	0.4936	130	64			12.40	6.1				
	R21	19	0.4746	130	62			12.40	5.9				
	R22	20	0.4564	130	59			12.40	5.7				
	R23	21	0.4388	130	57			12.40	5.4				
	R24	22	0.4220	130	55			12.40	5.2				
	R25	23	0.4057	130	53			12.40	5.0				
	R26	24	0.3901	130	51			12.40	4.8				
	R27	25	0.3751	130	49			12.40	4.7				
	R28	26	0.3607	130	47			12.40	4.5				
	R29	27	0.3468	130	45			12.40	4.3				
	R30	28	0.3335	130	43			12.40	4.1				
	R31	29	0.3207	130	42			12.40	4.0				
	R32	30	0.3083	130	40			12.40	3.8				
	R33	31	0.2965	130	38			12.40	3.7				
	R34	32	0.2851	130	37			12.40	3.5				
	R35	33	0.2741	130	36			12.40	3.4				
	R36	34	0.2636	130	34			12.40	3.3				
	R37	35	0.2534	130	33			12.40	3.1				
	R38	36	0.2437	130	32			12.40	3.0				
	R39	37	0.2343	130	30			12.40	2.9				
	R40	38	0.2253	130	29			12.40	2.8				
	R41	39	0.2166	130	28			12.40	2.7				
	R42	40	0.2083	130	27			12.40	2.6				
	R43	41	0.2003	130	26			12.40	2.5				
	R44	42	0.1926	130	25			12.40	2.4				
	R45	43	0.1852	130	24			12.40	2.3				
	R46	44	0.1780	130	23			12.40	2.2				
	R47	45	0.1712	130	22			12.40	2.1				
	R48	46	0.1646	130	21			12.40	2.0				
	R49	47	0.1583	130	21			12.40	2.0				
	R50	48	0.1522	130	20			12.40	1.9				
	R51	49	0.1463	130	19			12.40	1.8				
	R52	50	0.1407	130	18			12.40	1.7				
	R53	51	0.1353	130	18			12.40	1.7				
	R54	52	0.1301	130	17			12.40	1.6				
	R55	53	0.1251	130	16			12.40	1.6				
	R56	54	0.1203	130	16			12.40	1.5				
	R57	55	0.1157	130	15			12.40	1.4				
	R58	56	0.1112	130	14			12.40	1.4				
	R59	57	0.1069	130	14			12.40	1.3				
	R60	58	0.1028	130	13			12.40	1.3				
	R61	59	0.0989	130	13			12.40	1.2				
合計				2,335	2,481	2,031		222.8	32.9	2,253.3			



年平均被害軽減期待値 130 建設費 2,031
 年便益の総和 2,335 維持管理費 223
 残存価値 33
 築堤・掘削 (築堤・掘削の総費用) / (1+0.04)⁵⁹ = 144/1.04⁵⁹
 護岸等構造物 (護岸等構造物の総費用) * 0.1 / (1+0.04)⁵⁹ = 1176 * 0.1 / 1.04⁵⁹
 用地費 6 (用地費の総費用) / (1+0.04)⁵⁹ = 58/1.04⁵⁹
 総便益B 2,368 (年便益+残存価値)
 総費用C 2,254 (建設費+維持管理費)
 B/C 1.1

注) ・毎年維持管理費は、河川分の事業費の0.5%とし、2.465×0.005=12.32百万円とした。

令和2年度大規模事業評価専門委員会 現地調査行程(案1)

○開催日: 令和2年8月20日(木)

○対象事業

- ① 北上川(上流)広域河川改修事業(岩手町)
- ② 地域連携道路整備事業(地域密着型)一般県道大ヶ生徳田線 徳田橋(盛岡市、矢巾町)

○行程

		0:05				0:40				0:40	
始		移動時間	着	12:45	移動時間	着	13:50	移動時間	着	15:45	
	県庁	0:15		盛岡駅	1:00		岩手町	1:15		矢巾町	
	車庫前						現地調査			現地調査	
	出発						北上川(上流)			徳田橋	
発	12:30		発	12:50		発	14:30		発	16:25	

		0:05				0:05	
移動時間	着	16:55	移動時間	着	17:15		
0:30		盛岡駅	0:15		県庁		
					帰庁		
	発	17:00		終			

◎時間は現時点での目安であり、交通状況等により変更になる場合があります。

令和2年度大規模事業評価専門委員会 現地調査行程(案2)

○開催日: 令和2年8月20日(木)

○対象事業

- ① 木賊川広域河川改修事業(盛岡市、滝沢市)
- ② 地域連携道路整備事業(地域密着型)一般県道大ヶ生徳田線 徳田橋(盛岡市、矢巾町)

○行程

		0:05				0:40				0:40	
始		移動時間	着	13:15	移動時間	着	13:50	移動時間	着	15:10	
	県庁	0:15		盛岡駅	0:30		滝沢市	0:40		矢巾町	
	車庫前						現地調査			現地調査	
	出発						木賊川			徳田橋	
発	13:00		発	13:20		発	14:30		発	15:50	

		0:05				0:05	
移動時間	着	16:20	移動時間	着	16:40		
0:30		盛岡駅	0:15		県庁		
					帰庁		
	発	16:25		終			

◎時間は現時点での目安であり、交通状況等により変更になる場合があります。

令和2年度大規模事業評価専門委員会 現地調査行程(案3)

○開催日: 令和2年8月20日(木)

○対象事業

- ① 北上川(上流)広域河川改修事業(岩手町)
- ② 木賊川広域河川改修事業(盛岡市、滝沢市)
- ③ 地域連携道路整備事業(地域密着型)一般県道大ヶ生徳田線 徳田橋(盛岡市、矢巾町)

○行程

		移動時間		0:05		移動時間		0:40		移動時間		1:00	
始		移動時間	0:15	着	10:00	移動時間	1:00	着	11:05	移動時間	0:15	着	12:00
	県庁				盛岡駅				岩手町				岩手町
	車庫前								現地調査				昼食
	出発								北上川(上流)				
発	9:45	発	10:05	発	11:45	発	13:00						

		移動時間		0:40		移動時間		0:40		移動時間		0:05		移動時間		0:15	
移動時間	0:50	移動時間	0:40	移動時間	0:30	移動時間	0:15	着	13:50	着	15:10	着	16:10	着	16:30		
									滝沢市				盛岡駅				県庁
									現地調査								
									木賊川								帰庁
発	14:30	発	15:50	発	16:15	終											

◎時間は現時点での目安であり、交通状況等により変更になる場合があります。